intra-mart WebPlatform
Ver.7.0

セットアップガイド

2012/03/26 第 9 版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2008/07/07	初版
2008/08/22	第 2 版 「3.3.1.2 組み込みモジュールのコンパイル(UNIX系OS)」にApache2 を 64bitでコンパイルする場合のconfigure例を追加しました。 「3.3.2 IIS6.0 の場合」を修正しました。
2008/09/30	第 3 版 「3.5.1 準備」にDB2 利用時の注意点を追加しました。
2009/02/27	第 4 版 「3.2.4 diconファイルの設定について」を追加しました。 「3.3.4.2 自作Webアプリケーションの登録」のhttp.xmlの<web-app>タグ設定方法を修正しました。
2009/06/30	第 5 版 「3.3.4.1 エイリアスの変更方法」にポータルに関する記述を追加しました。 「3.2.1 インストーラの起動と操作」の誤字を修正しました。 「3.3.1.2 組み込みモジュールのコンパイル(UNIX系OS)」にSolaris10 に関する記述を追加しました。
2009/10/30	第 6 版 「7 アンインストール」にデータベースの初期化に関する内容を追記しました。
2010/11/30	第 7 版 「3.3.1.2 組み込みモジュールのコンパイル(UNIX系OS)」のSolaris10 の場合を修正しました。 「3.3.4.1.6 ポータル情報のエイリアス変更」にサンプルデータインポートの情報を追加しました。 「3.5.1.1 Oracle Database 11g リリース 1 (11.1) 以降の注意点」を追加しました。 「3.7.1 かんたんログイン機能の利用について」を追加しました。 「5 intra-martへのログイン」を追加しました。 「6.5 試験環境等から環境を移行する場合」を追加しました。 その他のドキュメント内の誤字を修正しました。
2011/06/30	第 8 版 「6.5.3 移行先データベースへデータベース格納データのインポート」の誤字を修正しました。
2012/03/26	第 9 版 「3.3.2 IIS6.0 の場合」に、Windows Server 2003SP2 上のIIS6.0 利用時の設定方法について追記しました。

<< 目次 >>

1 システム構成 1
1.1 intra-mart WebPlatform 1
1.1.1 intra-mart WebPlatform(Resin) 1
1.1.2 intra-mart WebPlatform(JBoss) 1
1.2 intra-mart DebugServer 1
1.3 各モジュールについて 2
1.4 用語解説 3
1.5 前提条件 4
1.6 データベースの使用について 4
2 インストールの流れ 5
2.1 サーバ構成図作成 5
2.2 データベースのインストール 5
2.3 データベース接続ドライバのインストール 5
2.4 Javaランタイムのインストール 5
2.5 WebServerのインストール 5
2.6 JBossのインストール 6
2.7 intra-mart Ver7.0 のインストール 6
2.8 Web Server Connectorの登録 6
2.9 JBossの設定 6
2.10 データベース接続の設定 6
2.11 intra-martの起動 7
3 インストール 8
3.1 準備 8
3.1.1 サーバ構成 8
3.1.2 JDBCドライバのインストール 8
3.1.3 Javaランタイムのインストール 10
3.1.4 WebServerのインストール 11
3.1.5 JBossのインストール 11
3.2 intra-mart Ver7.0 のインストール 12
3.2.1 インストーラの起動と操作 12
3.2.2 インストールディレクトリ構成 13
3.2.3 運用マシン構成とインストール 21
3.2.4 diconファイルの設定について 51
3.2.5 ライセンス登録について 52
3.2.6 インストーラのサイレント・モードについて 53
3.3 WebServerの設定 54
3.3.1 Apache 2 の場合 54
3.3.2 IIS6.0 の場合 59
3.3.3 ラウンドロビンの設定 63
3.3.4 その他の設定 64
3.4 JBossの設定 71
3.4.1 JBossのデプロイ例 71
3.4.2 環境変数「JAVA_HOME」の設定 72
3.4.3 「imart」ディレクトリの作成 72
3.4.4 im_portal_commonの組み込み 72
3.4.5 WARファイルの作成 73

3.4.6 データソース設定 ... 73
3.4.7 WARファイルのデプロイ ... 74
3.5 データベース接続の設定 ... 75
3.5.1 準備 ... 75
3.5.2 http.xmlの設定 ... 77
3.5.3 data-source.xmlの設定 ... 79
3.6 JavaMailおよびJAF(Javabeans Activation Framework)について ... 80
3.7 携帯端末の利用について ... 81
3.7.1 かんたんログイン機能の利用について ... 81
4 起動と停止 ... 84
4.1 起動と停止の順番について ... 84
4.1.1 intra-mart WebPlatform(Resin) の場合 ... 84
4.1.2 intra-mart WebPlatform(JBoss)の場合 ... 84
4.2 Server Manager／Service Platformの起動・停止方法 ... 85
4.2.1 Windowsの場合 ... 85
4.2.2 UNIX系OSの場合 ... 89
4.3 JBossの起動・停止方法 ... 91
4.3.1 JBossでOutOfMemoryErrorが発生した場合 ... 91
5 intra-martへのログイン ... 92
5.1 システム管理者でログイン ... 92
5.2 ログイングループの作成 ... 94
5.3 初期データインポート ... 97
5.4 ログイングループ管理者でログイン ... 100
6 intra-mart環境の再構築方法 ... 101
6.1 JDKを変更する場合 ... 101
6.1.1 Windowsの場合 ... 101
6.1.2 UNIX系OSの場合 ... 101
6.1.3 修正例 ... 102
6.2 IPアドレスを変更する場合 ... 104
6.2.1 imSPをインストールしたマシンのIPアドレスを変更する場合 ... 104
6.2.2 HTTPサーバのIPアドレスを変更する場合 ... 104
6.2.3 imSMのIPアドレスを変更する場合 ... 105
6.3 ポート番号を変更する場合 ... 106
6.3.1 WSCに接続するポート番号を変更する場合 ... 106
6.3.2 HTTPサーバのポート番号を変更する場合 ... 107
6.3.3 imSMのポート番号を変更する場合 ... 107
6.4 ログイングループ名を変更する場合 ... 108
6.5 試験環境等から環境を移行する場合 ... 110
6.5.1 移行元のログイングループ管理者で、移行情報のエクスポート ... 110
6.5.2 移行元データベースからデータベース格納データのエクスポート ... 111
6.5.3 移行先データベースへデータベース格納データのインポート ... 111
6.5.4 移行先環境へintra-martのインストール ... 111
6.5.5 各種ファイル、ディレクトリの移動 ... 111
6.5.6 移行先のグループ管理者で移行情報のインポート ... 112
7 アンインストール ... 113
7.1 コマンドプロンプトで動作させている場合 ... 113
7.2 サービスとして動作させている場合 ... 113

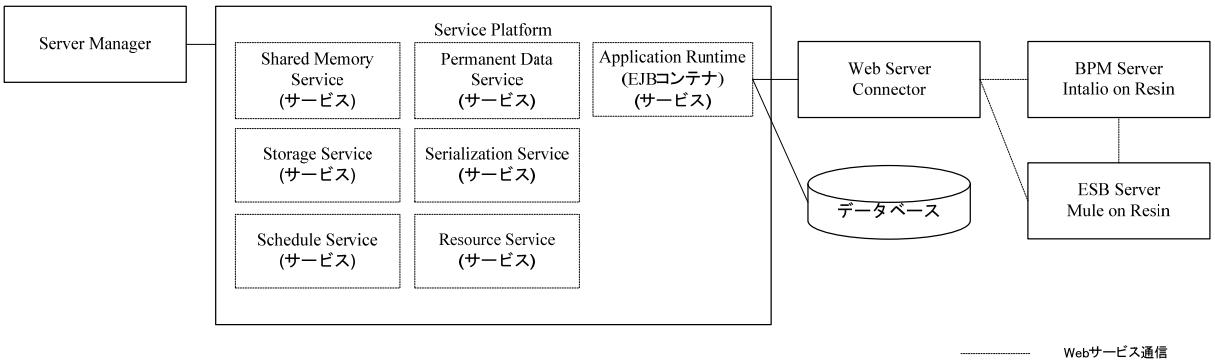
Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

7.3 Windowsの場合 113
8 付録A intra-mart システム管理シート 115
9 付録B インストールトラブルシューティング 117
9.1 注意事項 117
10 付録C 運用開始及び運用にともなうTips（安定稼動を目指すために） 118
10.1 運用開始後 118
10.2 運用 118
10.3 備考 119
11 付録D Oracle11gでの表領域、およびユーザの作成方法 120
11.1 表領域の作成 120
11.2 ユーザの作成 123
11.2.1 CREATE VIEW権限の付与 126

1 システム構成

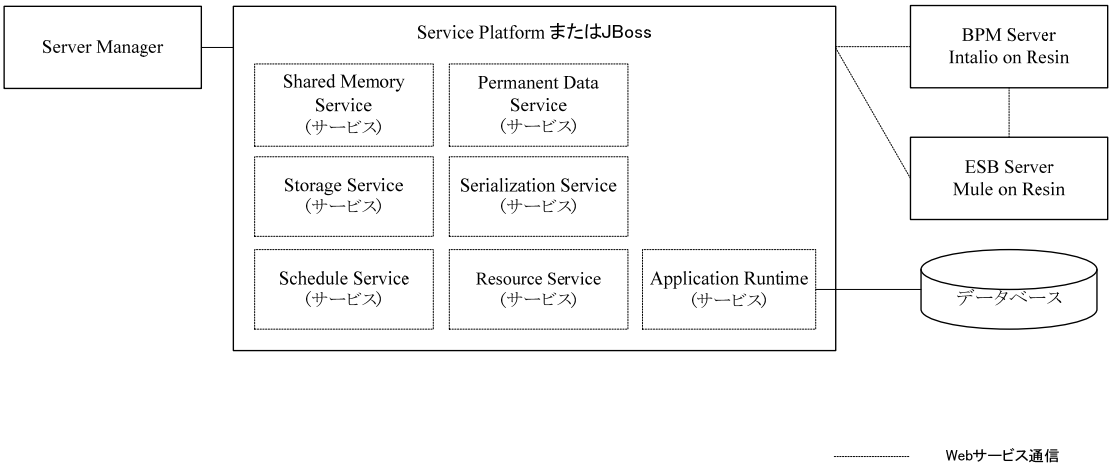
1.1 intra-mart WebPlatform

1.1.1 intra-mart WebPlatform(Resin)



intra-mart WebPlatform(Resin) Ver7.0 は4つのサーバ（Server Manager、Service Platform、BPM Server、ESB Server）と、1つの Web Server Connector から構成されています。

1.1.2 intra-mart WebPlatform(JBoss)



intra-mart WebPlatform(JBoss) Ver7.0 は4つのサーバ（Server Manager、Service Platform、BPM Server、ESB Server）から構成されています。

1.2 intra-mart DebugServer

デバッグサーバは、intra-mart e Builder で利用するデバッグ専用のサーバです。

デバッグサーバのインストール方法は、intra-mart e Builder のインストールガイドを参照してください。

1.3 各モジュールについて

- **Server Manager**
  Service Platform と、その上のサービス群の運用状況を統括的に管理します。
  その情報はクライアントの管理ツールである intra-mart Administrator に送信され、遠隔からのモニタリングを可能にします。また、ライセンス情報もここで管理されます。

- **Service Platform（各サービスが動作します）**
  下記のサービス群を実行するプラットフォームです。いわゆる、サーバプロセスがこれにあたります。

- **サービス（JavaVM 上で動作します）**
  - **Application Runtime**
    アプリケーションプログラム実行エンジンです。
    ※ 分散構成でインストールを行う場合、Application Runtimeを動作させるService Platformには、他のサービスをインストールすることはできません。（詳細は「3.2.3 運用マシン構成とインストール」をご覧下さい。）
    ※ ScheduleServiceで時間起動されるバッチプログラムは、このApplication Runtimeで実行されます。
    ※ ユニークなIDの生成もこのServicePlatformで行います。

  - **Shared Memory Service**
    共有メモリを管理するサービスです。
    このサービスが提供する情報管理はセッションレスです。タイムアウトなどによりデータが消失することはありません。

  - **Permanent Data Service**
    サーバが動作するために必要なデータを保存・管理するサービスです。
    このサービスでは情報をファイルに保存するので、サービスが停止した場合も、次の起動時に以前に保存されたデータを復元することができます

  - **Resource Service**
    intra-mart システムの動作に必要な各プレゼンテーションページ、ファンクションコンテナのソースを管理し、Application Runtime に対して必要なプログラムを配布するサービスです。

  - **Storage Service**
    共有ファイルを管理するサービスです。
    複数の Application Runtime を用いた分散システムで運用しているとき、アップロードされたファイルや、システムで共有化したいファイルを一元管理するときに利用します。

  - **Serialization Service**
    システム全体における統括的な利用を目的とした機能の集合体です。
    このサービスでは、アプリケーションのロック制御を行います。

  - **Schedule Service**
    バッチ処理のスケジューリングサービスです。
    このサービスでは、指定時間になると該当するバッチプログラムの実行を Application Runtime に依頼

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

します。したがって、バッチプログラムは Application Runtime で実行されます。

- **Web Server Connector**
  WebServer 上で、組み込みモジュールとして動作します。

- **intra-mart Administrator　(JavaVM 上で動作します)**
  クライアント側で動作し、Server Manager と通信しながら 各サービス群の管理を行います。
  Server Manager、Service Platform の起動、停止、設定などができます。
  また Server Manager、Service Platform を運用しているコンピュータ以外からも、リモートで運用管理を行うことができます。
- **BPM Server (Intalio on Resin)**
  業務フローのデザインツール・**BPM Desinge**r を搭載した、**BPEL の実行エンジン**です。
  BPM Desinger で作成した業務フローを実行し、intra-mart のドキュメントワークフローと連携させることができます。
- **ESB Server (Mule on Resin)**
  様々なアプリケーションサーバや、業界標準、プロトコルに対応し、アプリケーションの統合または連携を行います。

1.4 用語解説

intra-mart WebPlatform Ver7.0	以下、**IWP** と略します。 **IWP** をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>**と略します。
intra-mart DebugServer Ver7.0	以下、**DS** と略します。 **DS** をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>**と略します。
intra-mart Server Manager	システム全体を管理するサーバです。以下、**imSM** と略します。
intra-mart Service Platform	サービスを起動するためのサーバ本体です。以下、**imSP** と略します。
Application Runtime	アプリケーションの実行エンジンです。以下、**AppRuntime** と略します。
Shared-Memory Service	共有メモリを管理するサービスです。以下、**SharedMemSrv** と略します。
Permanent-Data Service	永続データを管理するサービスです。以下、**PermDataSrv** と略します。
Resource Service	スクリプト開発モデルのプログラムファイルを管理するサービスです。 以下、**ResourceSrv** と略します。
Storage Service	ファイルを管理するサービスです。以下、**StorageSrv** と略します。
Serialization Service	排他制御機能のためのサービスです。以下、**SerializeSrv** と略します。
Schedule Service	バッチの時間起動を制御するサービスです。以下、**ScheduleSrv** と略します。
Web Server Connector	WebServer との連携用モジュールです。以下、**WSC** と略します。 **WSC** をインストールしたディレクトリを**<%web_path%>**と略します。
intra-mart Administrator	システム全体の状態を見るためのビューアです。以下、**imAdmin** と略します。
BPM Server(Intalio on Resin)	業務フローデザインツールを搭載した、BPEL 実行エンジンです。以下、**BPMS** と略します。
ESB Server(Mule on Resin)	アプリケーションの統合または連携を行います。以下、**ESBS** と略します。

1.5 前提条件

本製品をご使用になる際は、リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。
詳しくはリリースノートをご覧ください。

IWP では、データベースと連動させながら運用することが前提となります。
（このインストールガイドでは、データベースへの接続方法も合わせて解説しております）

1.6 データベースの使用について

- **Oracle を使用する場合**
  Oracle へは、JDBC 経由で接続します。
  弊社では JDBC ドライバは Oracle JDBC Driver 11.1.0 で動作試験をしております。

（注意） Oracle をインストールすると、Java ランタイムのバージョンが変わってしまう場合があります。
必ず Oracle をインストールしたあとに Java ランタイムをインストールして下さい。

- **Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合**
  Microsoft SQL Server 2005 へは、JDBC 経由で接続します。
  弊社では JDBC ドライバは Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver 1.2(Type4)で動作試験をしております。

- **DB2 を使用する場合**
  DB2 へは、JDBC 経由で接続します。
  弊社では JDBC ドライバは DB2 JDBC Driver (IBM DB2 9.5 に付属) Type4 で動作試験をしております。

- **PostgreSQL を使用する場合**
  PostgreSQL へは、JDBC 経由で接続します。
  弊社では JDBC ドライバは postgresql-8.3-603.jdbc3 で動作試験をしております。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

2 インストールの流れ

本製品を運用するにあたって、以下の手順でインストールを行ってください。

2.1 サーバ構成図作成

インストールを行う前に、運用するサーバ構成図の作成を行ってください。

サーバ構成図の作成には「8 付録A intra-mart システム管理シート」（115ページ）を利用ください。

参照		ページ
3.1.1	サーバ構成	8
3.2.3	運用マシン構成とインストール	21～36

2.2 データベースのインストール

ご利用になるデータベースをインストールしてください。

Oracle11g での、表領域およびユーザ登録の方法

参照		ページ
11	付録D Oracle11gでの表領域、およびユーザの作成方法	120

2.3 データベース接続ドライバのインストール

データベース接続ドライバをインストールしてください。

	参照		ページ
Oracle	3.1.2.1	Oracle JDBCドライバのインストール	8
Microsoft SQL Server 2005	3.1.2.2	Microsoft SQL Server 2005 JDBCドライバのインストール	9
DB2	3.1.2.3	DB2 JDBC ドライバのインストール	9
PostgreSQL	3.1.2.4	PostgreSQL 8.3 JDBCドライバのインストール	9

2.4 Javaランタイムのインストール

intra-mart を運用するすべてのコンピュータにインストールします。

参照		ページ
3.1.3	Javaランタイムのインストール	10

2.5 WebServerのインストール

IWP(Resin)をご利用になる場合には、WebServer をインストールする必要があります。

WebServer として運用するコンピュータにインストールします。

Application Runtime に内包されている intra-mart HttpServer を利用して運用する場合は、インストールの必要はありません。

参照		ページ
3.1.4	WebServerのインストール	11

2.6 JBossのインストール

IWP(JBoss)をご利用になる場合には、JBoss をインストールする必要があります。

参照		ページ
3.1.5	JBossのインストール	11

2.7 intra-mart Ver7.0 のインストール

サーバ構成にしたがって、本製品のインストールを行ってください。

参照		ページ
3.2.1	インストーラの起動と操作	12
3.2.3	運用マシン構成とインストール	21

2.8 Web Server Connectorの登録

IWP(Resin)をご利用になる場合には、Web Server Connector の登録が必要です。

Web Server Connector を WebServer に登録します。

Application Runtime を intra-mart HttpServer として運用する場合は、登録の必要はありません。

■ **Web Server の設定**

参照		ページ
3.3.1	Apache 2 の場合	54
3.3.2	IIS6.0 の場合	59
3.3.3	ラウンドロビンの設定	63

■ その他の設定

参照		ページ
3.3.4.1	エイリアスの変更方法	64
3.3.4.2	自作Webアプリケーションの登録	68
3.3.4.3	ログイン画面のURL変更	69

2.9 JBossの設定

IWP(JBoss)をご利用になる場合には、JBoss の設定が必要です。

参照		ページ
3.4	JBossの設定	71

2.10 データベース接続の設定

intra-mart Ver7.0 はデータベースの使用が前提となっています。

intra-mart がデータベースに接続するための設定を行います。

参照		ページ
3.5.1	準備	75
3.5.2	http.xmlの設定	77
3.5.3	data-source.xmlの設定	79

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

2.11 intra-martの起動

■ **Server Manager／Service Platform の起動・停止方法**

参照		ページ
4.2.1	Windowsの場合	85
4.2.2	UNIX系OSの場合	89

3 インストール

3.1 準備

3.1.1 サーバ構成

3.1.1.1 サーバ構成図

インストール前にサーバ構成図を作成することをお勧めします。
サーバ構成図には、各マシンの IP アドレスと、各 Service Platform のポート番号と、Service Platform 上で運用する各サービス名を明記します。
サーバ構成図を作成することで、インストールを簡単に行うことができます。
サーバ構成図は「**3.2.3 運用マシン構成とインストール**」を参考にしてください。

3.1.2 JDBCドライバのインストール

本製品でデータベースを使用する場合は、JDBC ドライバのインストールが必要です。

インストールした JDBC ドライバは、
Application Runtime が動作する Service Platform をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>** とした場合、**<%im_path%>/lib** の下に入れてください。
※ Application Runtime が動作する、すべてのコンピュータにインストールする必要があります。

3.1.2.1 Oracle JDBCドライバのインストール

本製品で Oracle を使用する場合は、インストールが必要です。
すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

Oracle JDBC Driver は、オラクルのサイトから配布されております。
http://www.oracle.com/technetwork/database/features/jdbc/index-091264.html からダウンロードできます。
（2010 年 11 月 22 日現在）
上記サイトから **Oracle JDBC Driver** をダウンロードし、インストールしてください。
詳しくは、Oracle のサイトを参照してください。

※ 弊社では JDBC ドライバは Oracle JDBC Driver 11.1.0 で動作試験をしております。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.1.2.2 Microsoft SQL Server 2005 JDBCドライバのインストール

本製品で Microsoft SQL Server 2005 を使用する場合はインストールが必要です。
すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver は、Microsoft Developer Network のサイトから配布されております。
http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=C47053EB-3B64-4794-950D-81E1EC91C1BA&displaylang=ja
からダウンロードできます。(2008 年 7 月 7 日現在)

上記サイトより **Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver** をダウンロードし、インストールしてください。
詳しくは、Microsoft Developer Network のサイトを参照してください。

※ 弊社では JDBC ドライバは Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver 1.2(Type4)で動作試験をしております。

3.1.2.3 DB2 JDBC ドライバのインストール

本製品で DB2 を使用する場合はインストールが必要です。
すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

IBM DB2 に付属の DB2 JDBC Driver Type4 をインストールしてください。
詳しくは、DB2 のマニュアルを参照してください。

※ 弊社では JDBC ドライバは DB2 JDBC Driver (IBM DB2 9.5 に付属) Type4 で動作試験をしております。

3.1.2.4 PostgreSQL 8.3 JDBCドライバのインストール

本製品で PostgreSQL 8.3 を使用する場合はインストールが必要です。
すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

PostgreSQL JDBC Driver は PostgreSQL JDBC web site から配布されております。
http://jdbc.postgresql.org/download.html からダウンロードできます。
(2008 年 7 月 7 日現在)
上記サイトより **PostgreSQL JDBC Driver** をダウンロードし、インストールしてください。

※ 弊社では JDBC ドライバは postgresql-8.3-603.jdbc3 で動作試験をしております。

3.1.3 Javaランタイムのインストール

サーバモジュールをインストールするコンピュータすべてにインストールします。
すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

3.1.3.1 インストール前の注意点

3.1.3.1.1 データベースにOracleを使用する場合

Oracle をインストールすると、Java ランタイムのバージョンが変わってしまう場合があります。
必ず Oracle をインストールした後に、Java ランタイムをインストールして下さい。

3.1.3.1.2 Solaris版 Javaランタイム をインストールする場合

Solaris 版 Java ランタイムをインストールする場合は、事前に Solaris OS の必須パッチをインストールしてください。
適切な Solaris パッチがインストールされていないと、正しく動作しないことがあります。
Solaris 10 OS 用の Java 2, Standard Edition クラスタ パッチは、
http://jp.sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patches/patch-access からダウンロードできます。
（2008 年 7 月 7 日現在）
詳細は Java ランタイムをダウンロードしたサイトをご覧ください。

3.1.3.2 インストール手順

1. Javaランタイム(JavaTM 2 SDK, Standard Edition 1.5.0_x) をダウンロードします。Javaランタイムのインストーラは、下記のサイトからダウンロードできます。
   http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/download.html （2008 年 7 月 7 日現在）

2. ダウンロードしたインストーラから、インストールを行います。インストールに関する詳細は、下記のサイトを参照してください。
   http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/install.html （2008 年 7 月 7 日現在）

3. コマンドラインに「**java –version**」と入力し、リターンキーを押します。

4. コマンドラインにバージョン情報が表示されたら、インストールは成功です。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.1.4 WebServerのインストール

IWP をご利用になる場合は、WebServer のインストールが必要となります。

Application Runtime に内包されている intra-mart HttpServer を利用して運用する場合は、インストールの必要はありません。

WebServer として運用するコンピュータのみにインストールします。

- Apache 2.2.x
- IIS6.0

WebServer のマニュアル等をご覧になり、適切にインストールしてください。

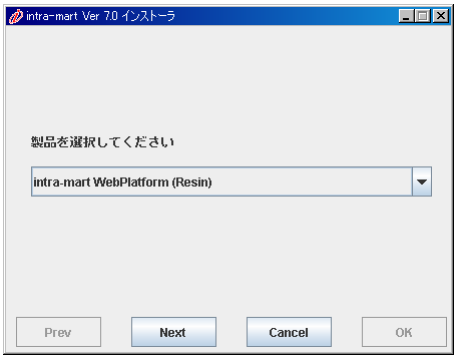
3.1.5 JBossのインストール

IWP(JBoss)をご利用になる場合は、JBoss Application Server のインストールが必要となります。

JBoss Application Server のインストーラから JBoss Application Server Ver4.2.2 をインストールしてください。

3.2 intra-mart Ver7.0 のインストール

3.2.1 インストーラの起動と操作



インストーラの起動および操作は以下のように行います。

■ **Windows の場合**

1. java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. エクスプローラで本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. iwp_iaf¥install ディレクトリへ移動します。
4. **setup.jar** をダブルクリックし起動します。
   (**setup.bat** をダブルクリックしても起動できます。)
5. インストーラの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。
   (間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

■ **UNIX 系 OS の場合**

1. java コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. コンソール画面で本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. iwp_iaf/install ディレクトリへ移動します。
4. コンソールから **java -jar ./setup.jar** と入力します。
   (**setup.sh** を実行しても起動できます。)
5. インストーラの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。
   (間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

なお、Solaris および Linux などの UNIX 系 OS では、Xwindow が起動しているマシンでインストールする場合だけ、インストーラのウィンドウが表示されます。
Xwindow が起動していない場合、コンソールでの対話形式でインストールを行います。

強制的に対話形式でインストールを行うには、インストーラの起動コマンド末尾に「**-con**」を追加してください。

例 ： **java -jar ./setup.jar** -con

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.2 インストールディレクトリ構成

インストールディレクトリ構成について説明します。

3.2.2.1 Web Server Connector ディレクトリ構成

```
<%web_path%>
  |
  ├ alert/                    警告ページ格納ディレクトリ
  |
  ├ applet/                   アプレット格納ディレクトリ
  |
  ├ bpw/                      BPW 用ファイル格納ディレクトリ
  |                           （アドバンスト版またはエンタープライズ for BPM 版のみ）
  ├ csjs/                     クライアントサイド JavaScript 格納ディレクトリ
  |
  ├ css/                      カスケードスタイルシート格納ディレクトリ
  |
  ├ flash/                    Flash ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ images/                   イメージファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ img/                      イメージファイル格納ディレクトリ（旧バージョン互換用）
  |
  ├ maskat/                   マスカット用ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ portal/                   ポータル用ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ round_robin/              Web サーバコネクタ(組み込みモジュール)
  |
  ├ skin/                     カラーパターン用ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ table_maintenance/        テーブルメンテナンス用ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ format_creator            FormatCreator 用ファイル格納ディレクトリ
  |                           (アドバンスト版またはエンタープライズ for BPM 版のみ)
  ├ view_creator/             view_creator 用ファイル格納ディレクトリ
  |
  └ identification.properties バージョン情報ファイル
                              （WSC に適用したパッチ番号を確認することが出来ます）
```

3.2.2.2 Server Manager ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
│
├ bin/                          サーバモジュール 実行ファイル格納ディレクトリ
│  │
│  ├ manager.bat                Server Manager 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
│  │
│  ├ manager.sh                 Server Manager 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
│  │
│  ├ MgrService.exe             サービス化モジュールファイル （Windows 用）
│  │
│  ├ MgrService.ini             サービス化初期設定ファイル （Windows 用）
│  │
│  ├ service/                   ServiceManager 格納ディレクトリ （Windows 用）
│  │
│  └ tools/                     ツール格納ディレクトリ
│     │
│     ├ licedit.bat             ライセンス登録用コマンドファイル（Windows 用）
│     │
│     └ licedit.sh              ライセンス登録用コマンドファイル（UNIX 用）
│
├ conf/                         サーバモジュール 共通初期設定ファイル 格納ディレクトリ
│  │
│  ├ imart.xml                  intra-mart 基本設定ファイル
│  │
│  ├ system.xml                 intra-mart システム設定ファイル
│  │
│  ├ data-source.xml            データソース設定ファイル
│  │
│  ├ access-security.xml        アクセスセキュリティ設定ファイル
│  │
│  ├ design/                    デザイン関連設定ファイル格納ディレクトリ
│  │
│  ├ i18n/                      国際化関連設定ファイル格納ディレクトリ
│  │
│  ├ message/                   メッセージ・ファイル格納ディレクトリ
│  │
│  ├ log/                       ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
│  │
│  └ mail/                      メール送信 API 定義ファイル格納ディレクトリ
├ licenses/                     ライセンス情報保存ディレクトリ
│
├ log/                          intra-mart ログ出力ディレクトリ
│
└ specification/                仕様情報格納ディレクトリ
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.2.3 Application Runtime ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
  |
  ├ bin/                    サーバモジュール 実行ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ server.bat           Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ server.sh            Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.exe       サービス化モジュールファイル （Windows 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.ini       サービス化初期設定ファイル （Windows 用）
  |  |
  |  ├ im_portal_common/    ポータルモジュールライブラリ格納ディレクトリ
  |  |
  |  └ service/             Service Manager 格納ディレクトリ （Windows 用）
  |
  ├ conf/                   サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ http.xml             Regin 基本設定ファイル
  |  |
  |  ├ imart.xml            intra-mart 基本設定ファイル
  |  |
  |  ├ log/                 ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  └ datastore/           アプリケーション共通マスタ設定ファイル格納ディレクトリ
  |
  ├ doc/                    Web コンテンツ（JavaEE ベース開発モデルプログラム）格納ディレクトリ
  |
  ├ log/                    intra-mart ログ出力ディレクトリ
  |
  └ lib/                    intra-mart サーバモジュール 共通ライブラリ 格納ディレクトリ
```

3.2.2.4 Shared Memory Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
 │
 ├ bin/                    サーバモジュール 実行ファイル格納ディレクトリ
 │  │
 │  ├ server.bat           Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
 │  │
 │  ├ server.sh            Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
 │  │
 │  ├ SrvService.exe       サービス化モジュールファイル （Windows 用）
 │  │
 │  ├ SrvService.ini       サービス化初期設定ファイル （Windows 用）
 │  │
 │  └ service/             ServiceManager 格納ディレクトリ （Windows 用）
 │
 ├ log/                    intra-mart ログ出力ディレクトリ
 │
 └ conf/                   サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
    │
    ├ log/                 ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
    │
    └ imart.xml            intra-mart 基本設定ファイル
```

3.2.2.5 Permanent Data Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
 │
 ├ bin/                    サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
 │  │
 │  ├ server.bat           Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
 │  │
 │  ├ server.sh            Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
 │  │
 │  ├ SrvService.exe       サービス化モジュールファイル （Windows 用）
 │  │
 │  ├ SrvService.ini       サービス化初期設定ファイル （Windows 用）
 │  │
 │  └ service/             ServiceManager 格納ディレクトリ （Windows 用）
 │
 ├ log/                    intra-mart ログ出力ディレクトリ
 │
 └ conf/                   サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
    │
    ├ log/                 ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
    │
    └ imart.xml            intra-mart 基本設定ファイル
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.2.6 Storage Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
  |
  ├ bin/                          サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ server.bat                 Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ server.sh                  Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.exe             サービス化モジュールファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.ini             サービス化初期設定ファイル（Windows 用）
  |  |
  |  └ service/                   ServiceManager 格納ディレクトリ（Windows 用）
  |
  ├ conf/                         サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ log/                       ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  └ imart.xml                  intra-mart 基本設定ファイル
  |
  ├ log/                          intra-mart ログ出力ディレクトリ
  |
  └ storage/                      Storage Service のリソース格納ディレクトリ
     |
     ├ bpw/                       BPW 用ディレクトリ
     |  |                         (アドバンスト版またはエンタープライズ forBPM 版のみ)
     |  |
     |  ├ database/                ワークフローで使用するインデックス生成用 SQL 等格納ディレクトリ
     |  |
     |  ├ excel_template/          プロセス定義情報のテンプレートファイル格納ディレクトリ
     |  |
     |  └ mail_template/           ワークフロー用メール文章のテンプレートファイル格納ディレクトリ
     |
     ├ bpms/                       BPMS 用 SQL ファイル格納ディレクトリ
     |                             (エンタープライズ for BPM 版のみ)
     ├ portal/                     ポータル関連ファイル格納ディレクトリ
     |
     ├ system/                     システム用ディレクトリ
     |  |
     |  ├ basic/                   ログイングループ初期化用データ格納ディレクトリ
     |  |
     |  ├ sample/                  サンプルデータ格納ディレクトリ
     |  |
     |  ├ master/config/           アプリケーション共通マスタバッチインポートエクスポート用ディレクトリ
     |  |
     |  └ template/calendar/       <IMART type="calendar">用テンプレートファイル格納ディレクトリ
     |
     ├ format_creator/             FormatCreator 用ディレクトリ
     |                             (アドバンスト版またはエンタープライズ for BPM 版のみ)
     |
     └ view_creator/               ViewCreator 用ディレクトリ
                                   （ViewCreator のソース出力機能を利用すると、
                                   storage/ 内の任意のディレクトリにソースを作成します）
```

3.2.2.7 Resource Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
  |
  ├ bin/                          サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ server.bat                 Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ server.sh                  Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.exe             サービス化モジュールファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.ini             サービス化初期設定ファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ service/                   ServiceManager 格納ディレクトリ（Windows 用）
  |  |
  |  └ tools/                     ツール格納ディレクトリ
  |     |
  |     └ js2class.bat            JavaScript コンパイラコマンドファイル（Windows 用）
  |
  ├ conf/                         サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ log/                       ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  └ imart.xml                  intra-mart 基本設定ファイル
  |
  ├ log/                          intra-mart ログ出力ディレクトリ
  |
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

```
└ pages/                          スクリプト開発モデルプログラム格納ディレクトリ
  │
  ├ platform/src/                 IWP スクリプト開発モデルプログラム格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ bpms/                      BPMS 格納ディレクトリ
  │  │                            (エンタープライズ for BPM 版のみ)
  │  │
  │  ├ bpw/                       BPW 格納ディレクトリ
  │  │                            (アドバンスト版またはエンタープライズ for BPM 版のみ)
  │  │
  │  ├ format_creator/            FormatCreator 格納ディレクトリ
  │  │                            (アドバンスト版またはエンタープライズ for BPM 版のみ)
  │  │
  │  ├ event_navigator/           イベントナビゲータ格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ system/                    システム設定ページ格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ template/                  テンプレートページ格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ tools/                     ツールページ格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ setup.js                   システム用の初期起動スクリプトファイル
  │  │
  │  ├ setup_bpms.js              BPMS 用の初期起動スクリプトファイル
  │  │
  │  └ source-config.xml          ソース設定ファイル
  │
  ├ product/src/                  intra-mart アプリケーション(イントラネット・スタートパックなど)の
  │                               スクリプト開発モデルプログラム格納ディレクトリ
  │
  │                               開発者が作成したスクリプト開発モデルプログラム格納ディレクトリ
  └ src/
    │                             初期起動スクリプトファイル
    └ init.js
```

3.2.2.8 Serialization Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
  │
  ├ bin/                          サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  │  │
  │  ├ server.bat                 Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
  │  │
  │  ├ server.sh                  Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
  │  │
  │  ├ SrvService.exe             サービス化モジュールファイル（Windows 用）
  │  │
  │  ├ SrvService.ini             サービス化初期設定ファイル（Windows 用）
  │  │
  │  └ service/                   ServiceManager 格納ディレクトリ（Windows 用）
  │
  ├ log/                          intra-mart ログ出力ディレクトリ
  │
  └ conf/                         サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
     │
     ├ log/                       ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
     │
     └ imart.xml                  intra-mart 基本設定ファイル
```

3.2.2.9 Schedule Service ディレクトリ構成

```
<%im_path%>
  |
  ├ bin/                    サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
  |  |
  |  ├ server.bat           Service Platform 起動用スクリプトファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ server.sh            Service Platform 起動用スクリプトファイル（UNIX 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.exe       サービス化モジュールファイル（Windows 用）
  |  |
  |  ├ SrvService.ini       サービス化初期設定ファイル（Windows 用）
  |  |
  |  └ service/             ServiceManager 格納ディレクトリ（Windows 用）
  |
  ├ log/                    intra-mart ログ出力ディレクトリ
  |
  └ conf/                   サーバモジュール 共通初期設定ファイル格納ディレクトリ
     |
     ├ log/                 ログ関連設定ファイル格納ディレクトリ
     |
     └ imart.xml            intra-mart 基本設定ファイル
```

3.2.2.10 サンプル

インストーラで「サンプルをインストール」を選択した場合、上記ディレクトリ構成に加えてサンプル用のディレクトリ・ファイルがインストールされます。

3.2.2.11 改行コードの制限

intra-mart を Windows にインストールする場合、以下の拡張子のファイルは改行コードが LF となります。

- .xml
- .license
- .dtd
- .wsdl

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3 運用マシン構成とインストール

本製品は、さまざまなマシン構成で運用することができます。
いくつかのマシン構成を例にとり、インストール手順を説明します。

3.2.3.1 注意事項

インストールの際に必要となる、入力項目の注意点を説明します。

（※1） **Server Manager** または **Service Platform** のアドレスを入力する項目では、
必ず **マシンの IP アドレス** を入力してください。
「localhost」と入力してしまうと、intra-mart は動作しません。
（例） **192.168.0.2**

（※2） **Service Platform の ID** とは、intra-mart のサーバを**ユニークに判定するための ID** です。
必ず他の Service Platform と 異なる ID を指定してください。
重複した ID を指定してしまうと、intra-mart は正しく運用できません。
また、intra-mart Administrator の表示用にも使用されます。
入力可能な文字列は **半角英数字** と、「**_（アンダースコア）**」、「**:**（コロン）」、「**.（ドット）**」のみです。

マシン構成の例では Service Platform の ID に［IP アドレス：ポート番号］を指定しています。
（例） Service Platform をインストールした **IP アドレス： 192.168.0.2**
Service Platform をインストールした **ポート番号： 49150**
のとき、
Service Platform の ID ： 192.168.0.2:49150

（※3） **HTTP サーバ** のアドレスを入力する項目では、
intra-martHTTP サーバもしくは、**Apache や IIS などの HTTP サーバの IP アドレス** を入力してください。
（例） **192.168.0.2**

（※4） **IWP 7.0 Patch 3** 以上を適用しないで稼動する場合は、
必ず「**3.2.4 diconファイルの設定について**」に記述されている作業を行ってください。

（※4） **HTTP サーバ**のポートを入力する項目では、
intra-martHTTP サーバもしくは、**Apache や IIS などの HTTP サーバのポート番号**を入力してください。

なお、**Oracle11g** を標準でインストールすると、ポート番号「**8080**」を使用してしまうため、
Application Runtime（Standalone 型時も含む）を同じコンピュータにインストールした場合に、
ネットワークのポート設定が衝突してサーバが起動できないことがあります。
インストールを行う際は、**ポート番号が重複しないように**、設定には十分注意してください。

（※5） **多言語環境を構築する際は、「サーバモジュールの文字コード」**、および、
「ウェブブラウザへ送信する文字コード」に**「UTF-8」**を選択してください。

（※6） **BPMS** の **HTTP サーバ**のアドレスを入力する項目では、**BPMS** に当てるサーバの IP アドレスを
入力してください。また、**BPMS** を標準でインストールすると、ポート番号「**8080**」を使用してしまうため、
Application Runtime（Standalone 型時も含む）を同じコンピュータにインストールした場合に、ネットワーク
のポート設定が衝突してサーバが起動できないことがあります。
インストールを行う際は、**ポート番号が重複しないように**、設定には十分注意してください。

（※7）ヒープサイズに関する注意事項について
初期ヒープサイズ、最大ヒープサイズについて
マニュアルに記載されている値は、あくまで**サンプル値**です。
この値につきましては、環境にあわせて変更していただく必要がございます。
ヒープサイズが小さすぎますと OutOfMemory が発生いたしますのでご注意ください。

（※8）なお、**Server Manager** はデフォルトではポート番号「**49152**」を使用します。
このポート番号は **Windows Vista** など、OS によっては既に使用されている場合がありますので、
その場合は、インストール時に別のポート番号を指定してください。
また、インストール後に、**Server Manager** のポート番号を変更する場合は、
<%im_path%>/conf/imart.xml を編集してください。

記入例

```
<intra-mart>
  <administration>
      <host address="192.168.0.1"/>
      <network port="49152" timeout="30">
...
</intra-mart>
```

デフォルトポート番号一覧

サーバ/OS	ポート番号
Oracle HTTP Server	8080
BPMS	8080
Windows Vista	49152

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2 intra-mart WebPlatform(Resin) のマシン構成

この章で説明するマシン構成は、下記の状況を想定してインストールする場合の <例> となっています。

- ■ OS : Windows
- ■ サーバモジュールの文字コード : Windows-31J
- ■ ウェブブラウザへ送信する文字コード : Windows-31J
- ■ 製品の種類 : IWP Standard

他の OS にインストールする場合は、OS に合わせて各文字コードを選択してください。
（ただし、**多言語環境を構築する際は、「サーバモジュールの文字コード」**、および、**「ウェブブラウザへ送信する文字コード」**に**「UTF-8」**を選択してください。）

※ マシン構成を分散にする場合（以下の例では「マシン構成 3 ～ マシン構成 4」）は、
Application Runtime を動作させる Service Platform に他のサービスをインストールすることはできません。

3.2.3.2.1 **マシン構成 1**

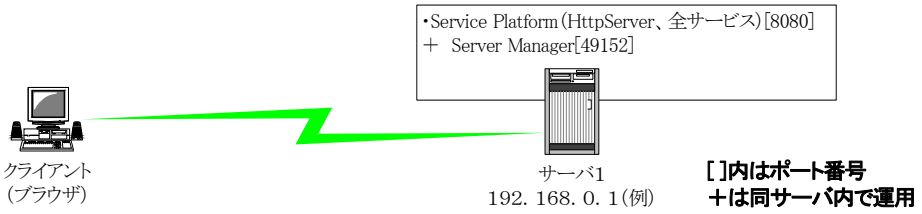
■ **サーバを 1 台で運用する**

Server Manager、Service Platform（全サービス）を 同じサーバ内で運用します。

Application Runtime に内包されている intra-mart HttpServer を利用して運用します。

intra-mart HttpServer を利用しているので、**Web Server Connector は必要ありません。**

サーバに **すべてのサーバモジュール**をインストールします。



3.2.3.2.1.1 **サーバ1へのインストール**

■ **すべてのサーバモジュールをインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバを使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	1
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.1 （※1）
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080 （※4）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152 （※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.1:8080 （※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

アドバンスト、エンタープライズ for BPM をインストールする場合は、インストールを行う製品の種類で「2：アドバンスト」または「3：エンタープライズ for BPM」を選択してください。エンタープライズ for BPMの詳細について

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

は、「3.2.3.4 エンタープライズ for BPMのインストール」を参照してください。

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

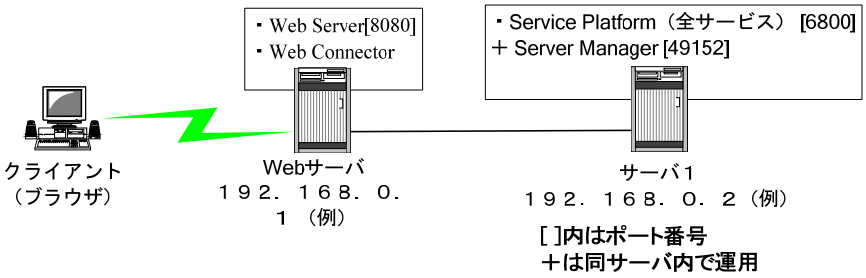
3.2.3.2.2 マシン構成 2

■ サーバを 2 台で運用する

Server Manager、Service Platform（全サービス）を 同じサーバ内で運用します。

Web サーバに **Web Server Connector** をインストールします。

サーバ 1 に **すべてのサーバモジュール**をインストールします。



3.2.3.2.2.1 Web サーバへのインストール

■ **Web Server Connector をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタのインストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
サンプルをインストール(y/n)?	n
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.2.2 サーバ1へのインストール

■ すべてのサーバモジュールをインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバを使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
ウェブサーバコネクタと接続するポート番号を入力してください	6800
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.2:6800（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2.3 **マシン構成 3**

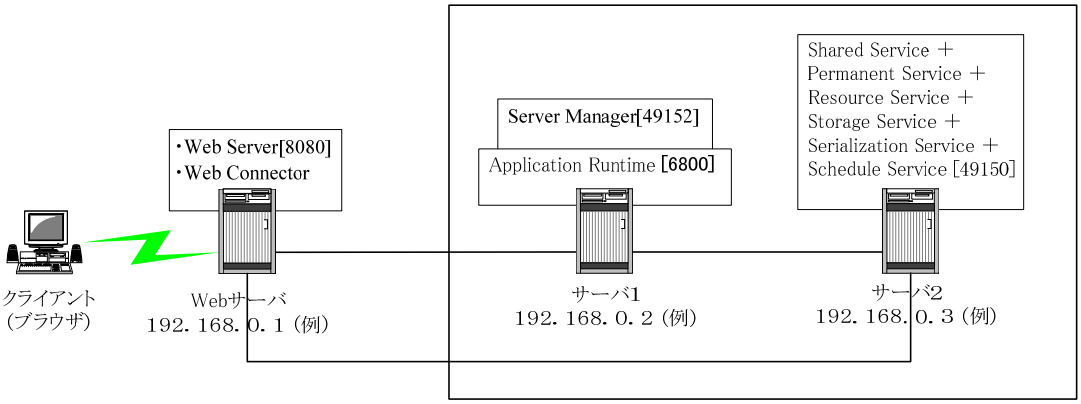
■ **サーバを 3 台で運用する**

Web サーバに **Web Server Connector** をインストールします。

サーバ 1 に **Server Manager、Application Runtime** をインストールします。

サーバ 2 に **その他のサービス** をインストールします。

※ アクセス頻度やアプリケーションの内容にもよりますが、サーバ 1 またはサーバ 2 を DB サーバと兼用することもできます。また、ApplicationRuntime を Web サーバ（HTTP サーバ）としてインストールすることも可能です。



[ ]内はポート番号
＋は同サーバ内で運用

3.2.3.2.3.1 Web サーバへのインストール

■ **Web Server Connector をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin)　2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework　　4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタのインストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
サンプルをインストール(y/n)?	n
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.3.2 サーバ 1 へのインストール

■ **Server Manager と Application Runtime をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	1
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバ を使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
ウェブサーバコネクタと接続するポート番号を入力してください	6800
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.2:6800（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2.3.3 サーバ 2 へのインストール

■ その他のサービス（**Application Runtime** 以外） をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	y
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	y
Resource Service をインストールする (y/n)?	y
Storage Service をインストールする (y/n)?	y
Serialization Service をインストール (y/n)?	y
Schedule Service をインストールする (y/n)?	y
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.3（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	192.168.0.3:49150（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.4 **マシン構成 4**

■ サーバを6台で運用する

Web サーバに **Web Server Connector** をインストールします。

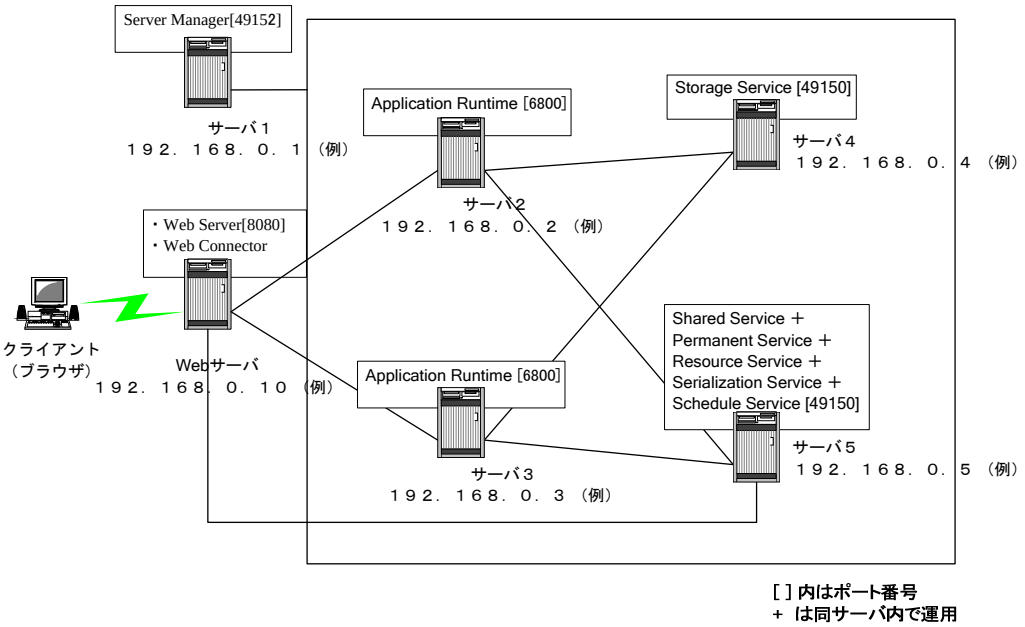
サーバ 1 に **Server Manager** をインストールします。

サーバ 2 に **Application Runtime** をインストールします。

サーバ 3 に **Application Runtime** をインストールします。

サーバ 4 に **Storage Service** をインストールします。

サーバ 5 に **その他のサービス** をインストールします。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2.4.1 Web サーバへのインストール

■ **Web Server Connector をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	n
ウェブサーバコネクタのインストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
サンプルをインストール(y/n)?	n
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.4.2 サーバ 1 へのインストール

■ **Server Manager をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152（※8）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.4.3 サーバ 2 へのインストール

■ **Application Runtime をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバ を使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
ウェブサーバコネクタと接続するポート番号を入力してください	6800
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.2:6800（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2.4.4 サーバ 3 へのインストール

■ **Application Runtime をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバ を使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.3（※1）
ウェブサーバコネクタと接続するポート番号を入力してください	6800
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.3:6800（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.2.4.5 サーバ 4 へのインストール

■ **Storage Service をインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	n
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	n
Resource Service をインストールする (y/n)?	n
Storage Service をインストールする (y/n)?	y
Serialization Service をインストール (y/n)?	n
Schedule Service をインストールする (y/n)?	n
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.4（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	192.168.0.4:49150（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.2.4.6 サーバ 5 へのインストール

■ その他のサービス（**Application Runtime**、**Storage Service** 以外） をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	y
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	y
Resource Service をインストールする (y/n)?	y
Storage Service をインストールする (y/n)?	n
Serialization Service をインストール (y/n)?	y
Schedule Service をインストールする (y/n)?	y
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.5（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	192.168.0.5:49150（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.3 intra-mart WebPlatform (JBoss) のマシン構成

これから説明するマシン構成は、下記の状況を想定してインストールする場合の <例> となっています。

- ■ OS : Windows
- ■ サーバモジュールの文字コード : Windows-31J
- ■ ウェブブラウザへ送信する文字コード : Windows-31J
- ■ 製品の種類 : IWP(JBoss) Standard

他の OS にインストールする場合は、OS に合わせて各文字コードを選択してください。
（ただし、多言語環境を構築する際は、「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」に「UTF-8」を選択してください。）

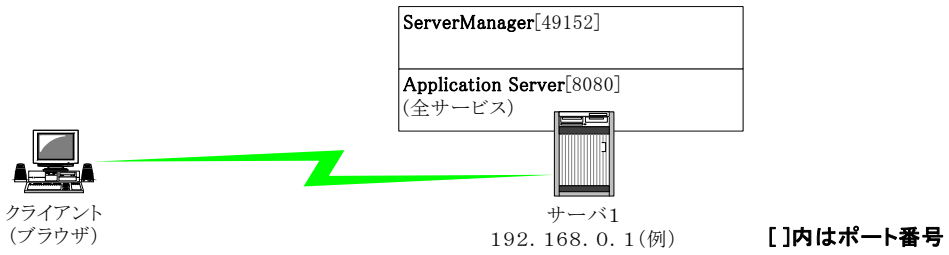
※ マシン構成を分散にする場合（以下の例では「マシン構成 2～マシン構成 3」）は、Application Runtime を動作させる JBoss に、他のサービスをインストールすることはできません。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.3.1 **マシン構成 1**

■ **サーバを 1 台で運用する**

サーバに **Application Server** と **すべてのサービス** をインストールします。



3.2.3.3.1.1 **サーバ 1 へのインストール**

■ **すべてのサービスをインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	1
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.1（※2）
サンプルをインストール (y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

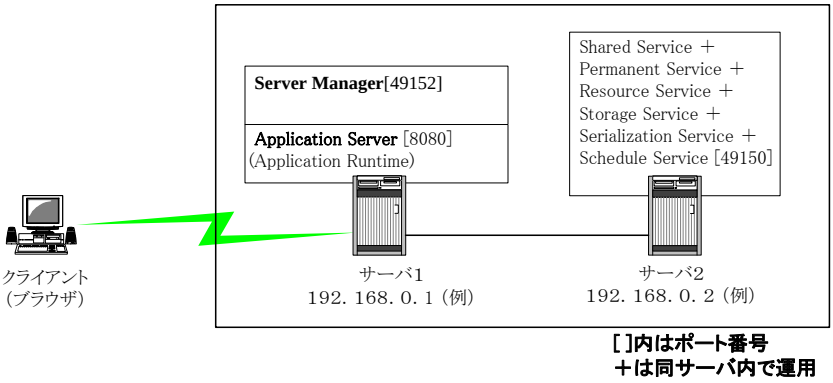
注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.3.2 **マシン構成 2**

■ サーバを 2 台で運用する

サーバ 1 に **Application Runtime** と **Server Manager** をインストールします。

サーバ 2 に **その他のサービス（Application Runtime 以外）** をインストールします。



3.2.3.3.2.1 **サーバ 1 へのインストール**

■ Server Manager と Application Runtime をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	1
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	1
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.1 （※1）
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080 （※4）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152 （※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.1 （※2）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※） の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.3.2.2 サーバ 2 へのインストール

■ その他のサービス（Application Runtime 以外）をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	y
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	y
Resource Service をインストールする (y/n)?	y
Storage Service をインストールする (y/n)?	y
Serialization Service をインストール (y/n)?	y
Schedule Service をインストールする (y/n)?	y
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.2（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.3.3 **マシン構成 3**

■ サーバを 4 台で運用する

サーバ 1 に Server Manager をインストールします。

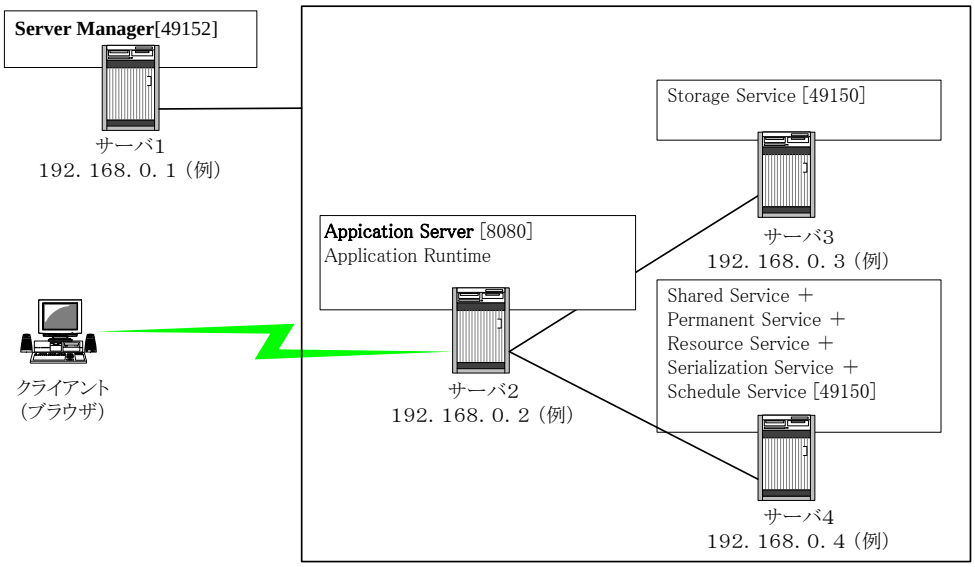
サーバ 2 に Application Runtime をインストールします。

サーバ 3 に Storage Service をインストールします。

サーバ 4 に その他のサービス をインストールします。

※ Storage Service は、利用度が低ければ、サーバ 4 にインストールすることもできます。

※ アクセス頻度やアプリケーションの内容にもよりますが、サーバ 2 またはサーバ 3 を DB サーバと兼用することもできます。



[ ] 内はポート番号
＋は同サーバ内で運用

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.3.3.1 サーバ 1 へのインストール

■ Server Manager をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	2
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152 （※8）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.3.3.2 サーバ 2 へのインストール

■ Application Runtime をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	1
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.2（※1）
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.2 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8080（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.2（※2）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.3.3.3 サーバ 3 へのインストール

■ Storage Service をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	n
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	n
Resource Service をインストールする (y/n)?	n
Storage Service をインストールする (y/n)?	y
Serialization Service をインストール (y/n)?	n
Schedule Service をインストールする (y/n)?	n
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.3（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	192.168.0.3（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.3.3.4 サーバ 4 へのインストール

■ その他のサービス（Application Runtime、Storage Service 以外）をインストールします

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	2
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 2:エンタープライズ for BPM)?	1
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	2
インストールするモジュールを選択してください。 (1:Server Manager と Service Platform 2:Server Manager のみ 3:Service Platform のみ)?	3
Service Platform の種類を選択してください (1:Application Runtime 2:その他のサービスを選択する)?	2
Shared Memory Service をインストールする (y/n)?	y
Permanent Data Service をインストールする (y/n)?	y
Resource Service をインストールする (y/n)?	y
Storage Service をインストールする (y/n)?	n
Serialization Service をインストール (y/n)?	y
Schedule Service をインストールする (y/n)?	y
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.4（※1）
Service Platform が使用するポート番号を入力してください	49150
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.2 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	7001（※4）
Server Manager のアドレスを入力してください	192.168.0.1（※1）
Server Manager のポート番号を入力してください	49152（※8）
Service Platform の ID を入力してください	192.168.0.4（※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.4 エンタープライズ for BPMのインストール

エンタープライズ for BPM を選択すると、**BPMS** 用の **Web サービス**等のモジュールがインストールされます。

エンタープライズ for BPM のインストールの際は、以下の点にご注意ください。

※エンタープライズ **for BPM** インストール時の注意点

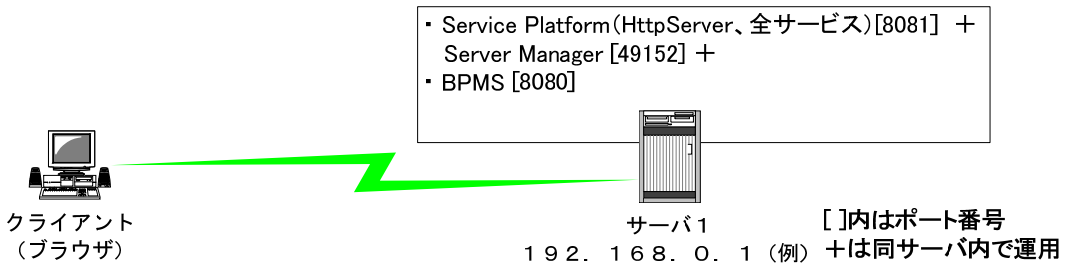
■**BPMS** をご利用になる際は、別途インストールする必要があります。
詳しくは、「BPM|Server セットアップガイド」を参照してください。
■エンタープライズ for BPM をインストールした場合は、**BPMS** の HTTP サーバの設定が必要となります。**BPMS** の HTTP サーバは**デフォルトで**ポート番号「**8080**」を専有してしまいますので、サーバ 1 台で運用する場合は、他のネットワークポートを重複しないように設定する必要があります。

エンタープライズ for BPM のインストール手順をマシン構成 5 を例に解説します。
（**エンタープライズ for BPM による他のマシン構成の設定に関しては、この手順を参考にしてください。**）

3.2.3.4.1 マシン構成 5

■ **サーバを 1 台で運用する**

サーバに **Server Manager**、**Service Platform(全サービス)**をインストールします。
（サーバ 1 台での運用となるため、**ポート番号が重複しないように**、この例では HTTP サーバのポート番号を「**8081**」に設定するものとします。）



3.2.3.4.1.1 サーバ1へのインストール

■ **すべてのサーバモジュールをインストールします**

1. インストーラを起動します。（詳しくは 3.2.1 インストーラの起動と操作 を参照）
2. 以下の手順でインストールを進めます。 (以下の例は Windows、スタンダードで説明しています)

手順	入力
製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	1
製品の種類を選択してください (1:スタンダード 2:アドバンスト 3:エンタープライズ for BPM)?	3
サーバモジュールをインストール(y/n)?	y
ウェブサーバコネクタをインストール(y/n)?	n
IM-Administrator をインストール(y/n)?	y
JDK のホームディレクトリを入力してください	パスをフルパスで入力してください
インストール先を入力してください	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現しま

	す)
サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	1
HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバを使用する 2:ウェブサーバコネクタを使用する)?	1
サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	1（※5）
このホストのアドレスを入力してください	192.168.0.1 （※1）
HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※3)
HTTP サーバのポート番号を入力してください	8081 （※4）
BPMS の HTTP サーバのアドレスを入力してください	192.168.0.1 (※6)
Server Manager が使用するポート番号を入力してください	49152 （※8）
Service Platform の ID を入力してください	APP:192.168.0.1:8081 （※2）
Service Platform の初期ヒープサイズ (-Xms) [MB] (例：64)	64 （※7）
Service Platform の最大ヒープサイズ (-Xmx) [MB] (例：128)	128 （※7）
サンプルをインストール(y/n)?	n
以下のスタートメニューに登録します	intra-mart WebPlatform Ver7.0
この構成でよろしいですか(y/n)?	y

注釈（※）の詳細については、「3.2.3.1 注意事項」を参照してください。

3.2.3.5 その他のマシン構成

本製品では、各サービスを 各マシンに どのように配置しても運用できるように設計されています。

最低限必要なサービスが存在すれば、各サービスが どの Service Platform 上に存在しても運用が可能となります。

■ **運用に必要となる各サービスの数**

Web Server Connector×0～∞

Server Manager×1

Application Runtime×1～∞

Shared Memory Service×1～2

Permanent Data Service×1～2

Resource Service×1～2

Storage Service×1～2

Serialization Service×1～2

これらのサービスは、
待機系の**セカンダリサービス**を立てることができます。
（詳細は**「3.2.3.5.3 各サービスの待機系を立てる場合」**を参照）

Schedule Service×0～2（使用しない場合は、インストールの必要はありません。）

■ **運用に最低限必要になる各サービスの数**

Server Manager×1

Application Runtime×1

Shared Memory Service×1

Permanent Data Service×1

Resource Service×1

Storage Service×1

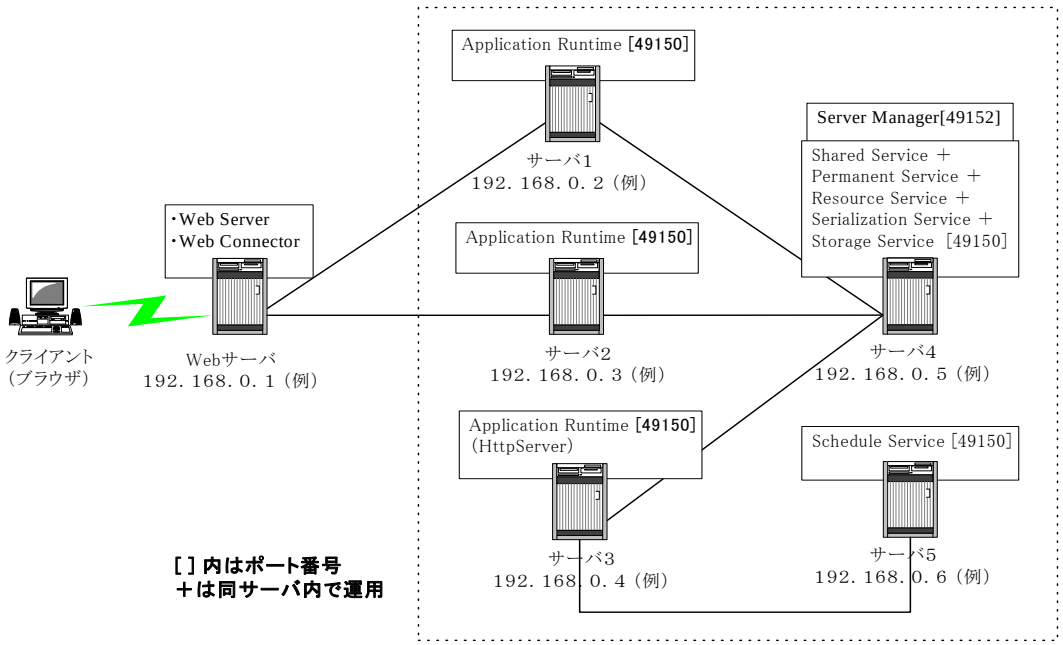
Serialization Service×1

これまでに説明したマシン構成は、あくまでも運用の「**マシン構成の例**」となります。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

前記以外のマシン構成でも運用は可能です。
インストールを行う前に、マシン構成の例を参考にしてマシン構成図を作成することをお勧めします。
マシン構成図を作成するポイントは、各マシンの IP アドレスと、運用する各 Service Platform のポート番号と、Service Platform 上で運用する各サービスを明記することです。
以上のことが明記してあれば、インストールはスムーズに行うことができるでしょう。

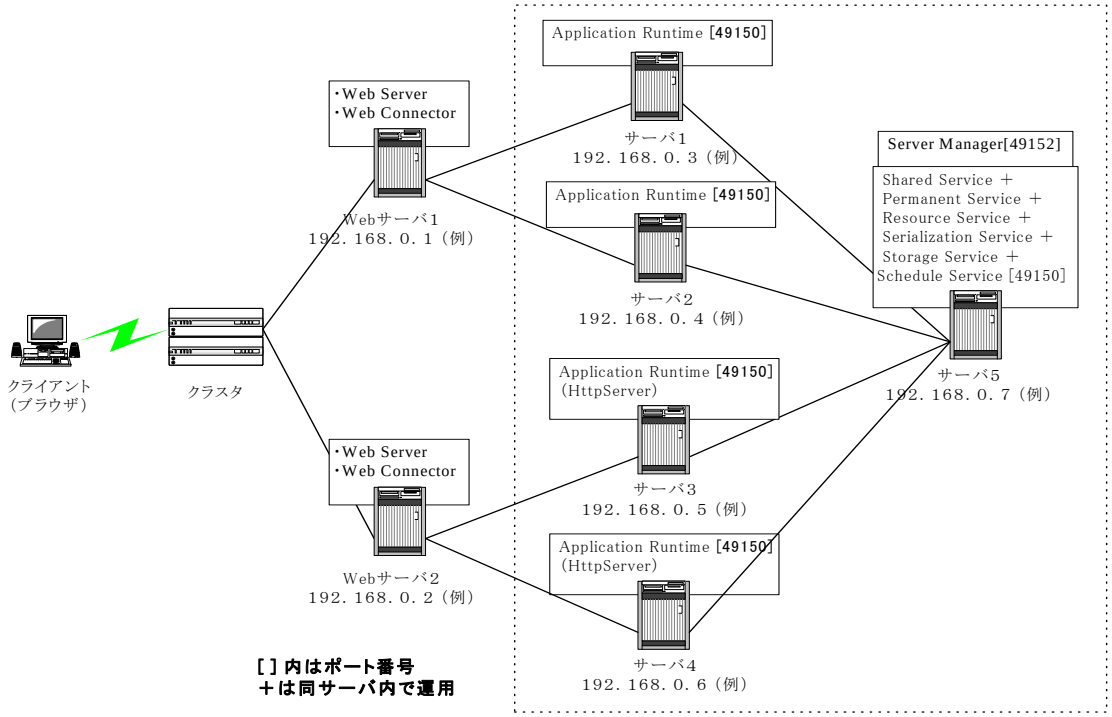
3.2.3.5.1 バッチプログラム実行専用のサーバを立てる構成



※ サーバ 3 を バッチプログラム実行の専用にする。

3.2.3.5.2 市販のクラスタ製品により Webサーバを分散する構成

この場合、セッションフェールオーバの方式を <メモリ toRDB 方式> にしていただく必要があります。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.5.3 各サービスの待機系を立てる場合

各サービスは**セカンダリサービス**を立てることができます。
それによって、プライマリのサービスが落ちてもセカンダリが処理を引き継ぐことができます。

前記のマシン構成では、ApplicationRuntime 以外の各サービスは1つだけをインストールする例を挙げてきましたが、同じサービスの2つ目をどこかのサーバにインストールすると、Server Manager へ自情報が通知されて、自動的にセカンダリサービスを立てることになります。

同サービスを2つインストールした場合の、プライマリとセカンダリの位置づけは、
先に起動させたサービスが **プライマリ**、後に起動させたサービスが **セカンダリ** となります。

Permanent Data Service、Resource Service、および Storage Service にセカンダリサービスを立てたときは、指定のディレクトリをディスク共有する必要があります。

■ ディスクの共有方法について

以下の表の「ディスク共有するディレクトリ」を、各コンピュータ間で共有させます。
（Windows のときは、ネットワークドライブ。 UNIX のときは NFS や Samba などで行う。）
同一のサービスを複数台同時に稼動させて、**フォールトトレランス機能** を利用したシステム構築をする場合は、すべての同一サービスが 共通のデータを読み書きできるようにする必要があります。

サービス	ディスク共有するディレクトリ	**imart.xml の設定項目**
Permanent Data Service	<%im_path%>/treasure	intra-mart/platform/permanent/treasure-root
Resource Service	<%im_path%>/pages	intra-mart/platform/resource/jssp /source-path/・・・・/ directory
Storage Service	<%im_path%>/storage	intra-mart/platform/storage/file-root

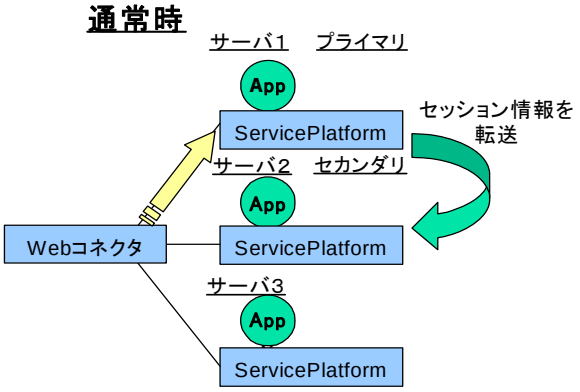
ディスク共有するディレクトリが、各サービスをインストールした場所と異なる場合、ディレクトリの参照先を変更することができます。
各サービスのインストール先に保存されている 設定ファイル**<%im_path%>/conf/imart.xml** を編集します。
上記の表の、各サービスの「imart.xml の設定項目」に示した設定項目に対して、絶対パス形式でディレクトリを指定することにより、コンピュータ内の任意のディレクトリをデータ保存ディレクトリとして動作させることが可能です。
例えば、ネットワークドライブに設定されているディレクトリを指定することにより、他のコンピュータとデータを共有することが可能になります。
※各設定項目の詳細に関しては Service Platform 設定ガイドを参照してください。

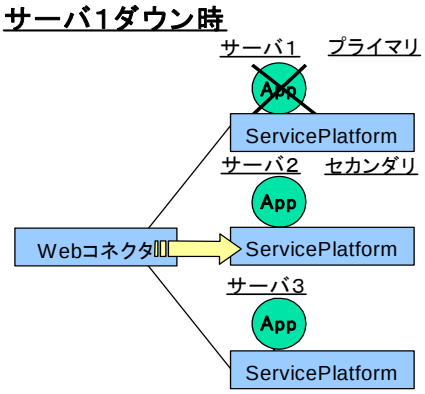
3.2.3.5.4 セッションフェールオーバについて

Application Runtime を複数立てた場合、HttpSession（ログインセッション）をフェールオーバさせることができます。（※ 詳しくは「Web Platform 設定ガイド」の「**Http セッションのフォールトトレランス**」を参照してください。）

IWP でのセッションフェールオーバは、以下の2方式となります。

■ メモリ to メモリ方式



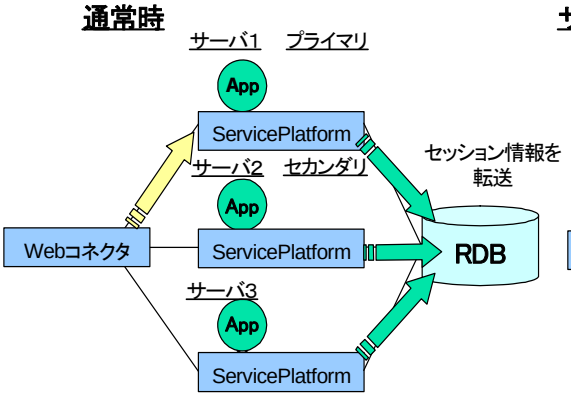


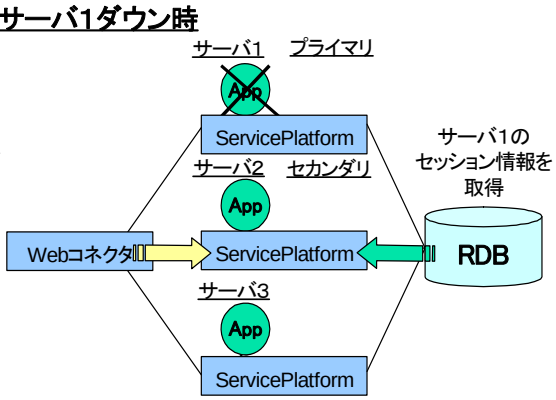
セッション情報の転送は、
プライマリから**セカンダリ**の
サーバ間で行われる。

サーバ 1 は サーバ 2 が セカンダリ、
サーバ 2 は サーバ 3 が セカンダリ、
サーバ 3 では サーバ 1 が セカンダリ となる。

サーバ 1 がダウンした場合、Web コネクタにより接続先がサーバ 2 に変更になり、セッション情報が転送されているため、サーバ 1 と同様にアクセス可能となります。
しかし、この状態の時にサーバ 2 も同時にダウンした場合には、セッション情報は喪失します。

■ メモリ to RDB 方式





セッション情報は、RDB 内で共有化されます。

サーバ 1 がダウンした場合、Web コネクタにより接続先がサーバ 2 に変更になり、サーバ 2 は RDB よりサーバ 1 の時のセッション情報を取得し、サーバ 1 と同様にアクセス可能となります。
メモリ to メモリ方式 とは違い、この状態でサーバ 2 がダウンしてもセッションは共有化されます。
しかし、RDB を使用するためレスポンス面で若干劣ります。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.4 diconファイルの設定について

この作業は、**IWP 7.0 Patch 3** 以上を適用することで自動的に行われます。 **IWP 7.0 Patch 2** 以前の環境で稼動する場合、この作業を必ず行ってください。

Application Runtime をインストールしたディレクトリを <**%im_path%**> とします。
<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/classes/im_hotdeploy.dicon をテキストエディタで開き、以下のように <include>、<component>の 4 行をコメントアウトします。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE components PUBLIC "-//SEASAR//DTD S2Container 2.4//EN"
  "http://www.seasar.org/dtd/components24.dtd">
<components>
  <!--
  <include path="convention.dicon"/>
  <include path="customizer.dicon"/>
  <include path="creator.dicon"/>
  <component class="org.seasar.framework.container.hotdeploy.HotdeployBehavior"/>
  -->
</components>
```

編集後 dicon ファイルを保存しテキストエディタを終了してください。
以上で、dicon ファイルの設定は終了です。

3.2.5 ライセンス登録について

以下の手順でライセンスの登録を行ってください。

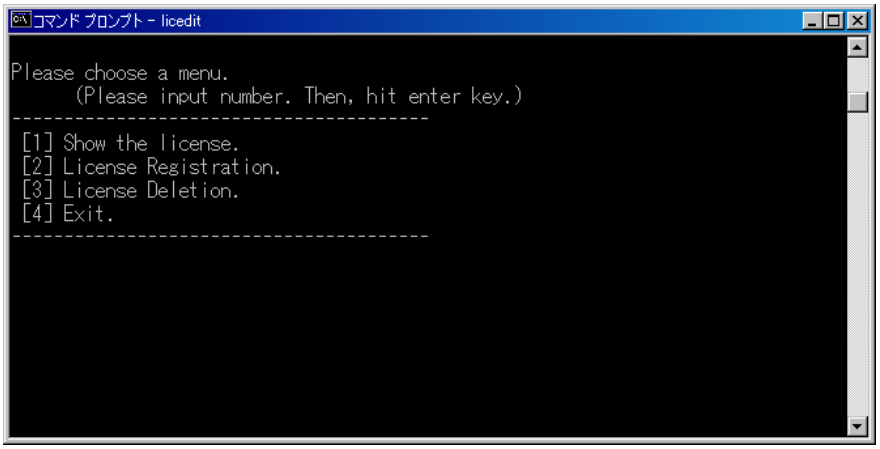
※ 試用版としてご利用の場合は、ライセンスを登録する必要はありません。

ライセンスの登録後は、全てのサーバの再起動が必要です。

Server Manager をインストールしたディレクトリを <%**im_path**%> とします。

1. <%im_path%>/bin/tools に移動して、以下のコマンドを実行します。
   （この際、Server Manager は停止させてください。）
   Windows の場合 ： **licedit.bat**
   UNIX の場合 ： **./licedit.sh**

2. ライセンスツールが起動し、ライセンス登録用メニューが表示されます。



3. メニューから[2]を入力して、ライセンスキーを登録します。
   正常に登録されると、登録されたライセンスが表示されます。
4. ライセンスの状態を参照するには、メニューから[1]を入力します。
5. ライセンスキーの削除を行うには、メニューから[3]を入力します。
   登録済みのライセンスキーが表示されるので、削除するライセンスキーの番号を入力してください。
6. ライセンスツールを終了するには、メニューから[4]を入力します。
7. 全てのサーバを再起動してください。

以上で、インストール後のライセンス登録は終了です。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.6 インストーラのサイレント・モードについて

intra-mart のインストーラには、一度行ったインストール手順を再現させる「サイレント・モード」が用意されています。

サイレント・モードでインストールを行う手順を以下に示します。

1. インストールの設定手順をファイルに書き出す
2. （詳細は「3.2.6.1 インストールの設定手順をファイルに書き出す」を参照）
3. 設定ファイルを読み込んでインストール
4. （詳細は「3.2.6.2 設定ファイルを読み込んでインストール」を参照）

3.2.6.1 インストールの設定手順をファイルに書き出す

インストーラ起動時に、オプション「**-s 設定ファイル名**」を指定することにより、これから行うインストールの設定手順を保存することが出来ます。

1. java コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. 本製品の CD-ROM の iwp_iaf/install/setup.jar を適当なディレクトリにコピーします。
3. コンソール画面にて、コピーした setup.jar のあるディレクトリに移動します。
4. コンソールから以下のコマンドを入力します。

```
java -jar ./setup.jar -s 設定ファイル名
```

5. ※設定ファイル名は setup.jar のあるディレクトリからの相対パスで指定してください。

6. インストーラが起動します。（コンソールでの対話形式でインストールを行います）
7. インストーラの指示にしたがって、値を入力します。
8. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[y]を入力します。
9. インストールが開始されます。

上記で行ったインストールの設定手順が、設定ファイルに出力されます。

3.2.6.2 設定ファイルを読み込んでインストール

インストーラ起動時に、オプション「**-f 設定ファイル名**」を指定することにより、「3.2.6.1 インストールの設定手順をファイルに書き出す」にて行ったインストール手順に則って、インストールが自動的に開始されます。

1. コンソール画面にて、コピーした setup.jar のあるディレクトリに移動します。
2. コンソールから以下のコマンドを入力します。

```
java -jar ./setup.jar -f 設定ファイル名
```

3. ※設定ファイル名は setup.jar のあるディレクトリからの相対パスで指定してください。

3.3 WebServerの設定

WebServer を IWP で利用できるように設定を行います。
ラウンドロビンを利用する場合は、必ず設定が必要になります。
WebServerConnector やラウンドロビンに関する詳細は、Web Platform 設定ガイドを参照してください。

本章では、Web Server Connector をインストールしたディレクトリを**<%web_path%>**、
Application Runtime が動作する Service Platform をインストールしたディレクトリを **<%im_path%>** と表記します。

- **UNIX 系 OS の場合は、以下のファイル、ディレクトリに各権限を与えてください**
  - **<%web_path%>** に、**読み込み権限** を与えてください。
  - 各サーバモジュールをインストールしたディレクトリに、**書き込み権限** を与えてください。

3.3.1 Apache 2 の場合

3.3.1.1 Apache 2 のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)の編集

この説明ではエイリアス名を「**imart**」として説明しています。
httpd.conf の末尾に以下のコードを追加してください。

```
Alias /imart "<%web_path%>"

<Directory "<%web_path%>">
   Order allow,deny
   Allow from all
</Directory>

LoadModule caucho_module 組み込みモジュールのパス

ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
#<Location /caucho-status>
#   SetHandler caucho-status
#</Location>
```

httpd.conf のサンプルは、以下のディレクトリにありますので参考にしてください。

OS	httpd.conf のサンプル
Windows	**<%web_path%>**/round_robin/win32/apache2.2/sample_httpd.conf
UNIX	**<%web_path%>**/round_robin/unix/apache2.x/sample_httpd.conf

Windows 版の組み込みモジュールは以下に用意されています。
<%web_path%>/round_robin/win32/apache2.2/mod_caucho.dll

UNIX 系 OS では、お客様の環境において組み込みモジュールをコンパイルする必要があります。
コンパイル済みの組み込みモジュールを以下の URL から取得することもできます。
こちらを利用する場合、動作環境等をよくご確認ください。
なお、このコンパイル済みの組み込みモジュールはサポート対象外となります。

http://www.intra-mart.jp/download/try/trylist2.html (TRY 版製品ダウンロード)

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.3.1.2 組み込みモジュールのコンパイル(UNIX系OS)

組み込みモジュール(mod_caucho.so)をお客様の環境でコンパイルする必要があります。

コンパイルで必要となるものを以下に記します。

- コマンド
  - **gcc**
  - **make**
  - **ld**

    which コマンドなどで上記のコマンドにパスが通っていることを確認してください。そうなっていない場合、上記コマンドが使用できるように環境を設定してください。

- **Autotools**
  - **m4**
  - **autoconf**
  - **automake**
  - **automake の詳細は、http://www.gnu.org/software/automake/ を参照してください。**
- Autotools は依存関係の都合上、上記の順番でインストールを行ってください。

autoconf のインストール例を以下に示します。

- autoconfのソースファイルは、(ftp://ftp.gnu.org/pub/gnu/autoconf/)から
- autoconf-2.x.tar.gz というファイル名でダウンロードすることが出来ます。
- ソースファイルの展開例を以下に示します。

  tar zxvf autoconf-2.x.tar.gz

  autoconf-2.x.tar.gz を展開すると **autoconf-2.x** というディレクトリが作成されます。
- この中に autoconf のソースが含まれています。
-

autoconf のソースを展開したディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
unix>./configure
unix>make
unix>make install
```

また、Apache 2 はDSO Surpport である必要があります。

DSO Surpport でない場合は、Apache 2 を DSO Surpport で再コンパイルしてください。

以下のコマンドを実行し「mod_so.c」が表示された場合、Apache2 は DSO Support が有効になっています。

```
unix> /usr/local/apache/bin/httpd -l
Compiled-in modules:
  ...
  mod_so.c
  ...
```

Apache2 の再コンパイル方法の例を以下に示します。

- Apache 2 のソースファイルは Apache の Web サイト(http://httpd.apache.org/)から
  httpd-2.2.x.tar.gz というファイル名でダウンロードすることができます。
  ソースファイルの展開例を以下に示します。

  tar zxvf httpd-2.2.x.tar.gz

  httpd-2.2.x.tar.gz を展開すると httpd-2.2.x というディレクトリが作成されます。
  この中に Apache 2 のソースが含まれています。

Apache 2 のソースを展開したディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
unix> ./configure --prefix=<Apache2 をインストールするディレクトリ> --enable-so
unix> make
unix> make install
```

Solaris では、Apache2 の configure 時に追加フラグが必要となる場合があります。Resin のロード時にリンクエラーが発生する場合は、DSO を有効とするためのフラグを追加してください。詳しくは、Apache2 のドキュメントを参照してください。以下に configure 例を示します。

```
unix> ./configure --prefix=<Apache2 をインストールするディレクトリ> ¥
                  --enable-rule=SHARED_CORE ¥
                  --enable-rule=SHARED_CHAIN ¥
                  --enable-so ¥
                  --enable-module=most ¥
                  --enable-shared=max
unix> make
unix> make install
```

Apache2 を 64bit でコンパイルする場合には、configure 時に専用のフラグを指定する必要があります。
以下に configure 例を示します。

```
unix> ./configure --prefix=<Apache2 をインストールするディレクトリ> --enable-so --with-expat=builtin
unix> make
unix> make install
```

上記で指定している「with-expat=builtin」は、リリースノートの検証済み環境に記載されている
"RedHat Enterprise Linux Advanced Platform 5 + Apache2.2.14"を例としたものです。
Apache2 の再コンパイルの際には、ご利用の環境に合わせてフラグを指定してください。

次のページでは **Solaris10** をご利用の場合に必要な準備に関して記述しています。
Linux等のOSをご利用の場合は、「組み込みモジュールのコンパイル手順」へお進みください

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

Solaris10 の場合

Solaris10 の場合は組み込みモジュールのコンパイル前に準備が必要です。ここではその例を説明します。OS の環境に合わせて適宜変更してください。

■ マクロの変更

<%web_path%>/round_robin/source/configure.ac をテキストエディタで開き、以下の二つのマクロ宣言を変更してください。

AC_PROG_LD

編集前

```
dnl Checks for programs.
AC_PROG_CC
AC_PROG_LD
AC_PROG_EGREP
```

編集後（AC_PROG_LD をコメントアウトし、LD を設定する）

```
dnl Checks for programs.
AC_PROG_CC
#AC_PROG_LD
LD=/usr/ccs/bin/ld
AC_PROG_EGREP
```

AC_PROG_LIBTOOL

編集前

```
AC_PROG_LIBTOOL
#
# libtool stuff
#
```

編集後(AC_PROG_LIBTOOL をコメントアウトする)

```
#AC_PROG_LIBTOOL
#
# libtool stuff
#
```

以上で Solaris10 の準備は終了です。

組み込みモジュールのコンパイル手順

以下のコマンドを実行します。

```
unix> cd <%web_path%>/round_robin/source
unix> ./configure --with-apache=<apache2 のパス>
unix> make
unix> make install
```

1. mod_caucho.so が Apache2 のモジュールディレクトリ(通常は、Apache2 の libexec や modules ディレクトリ) に作成されます。

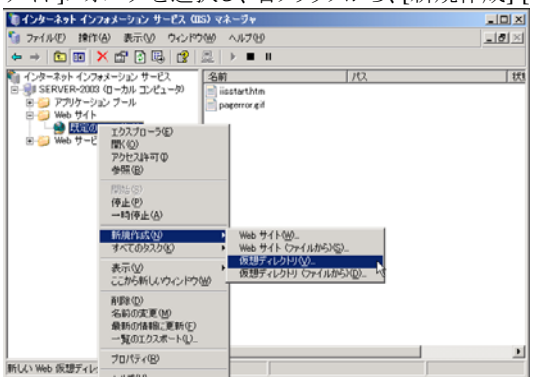
2. 作成された mod_caucho.so を以下のディレクトリにコピーします。
   <%web_path%>/round_robin/unix/apache2.x

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

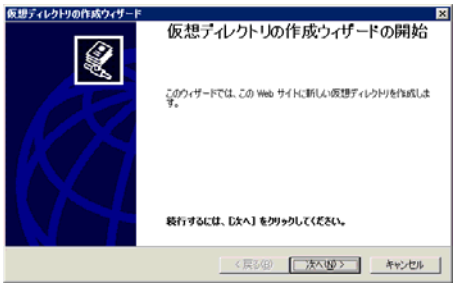
3.3.2 IIS6.0 の場合

1. インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャを起動します。

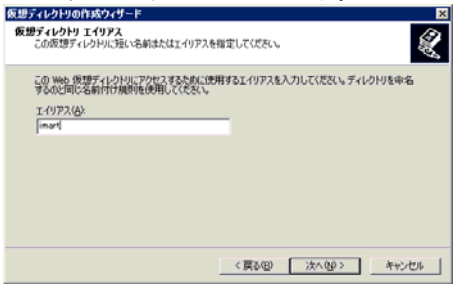
2. [既定の Web サイト]フォルダを選択し、右クリックから、[新規作成]-[仮想ディレクトリ]を選択します。



3. [次へ] ボタンをクリックして下さい。

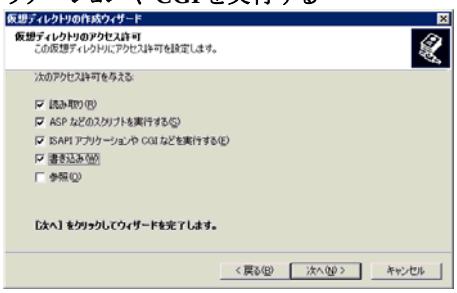


4. 仮想ディレクトリ名を入力し、[次へ] ボタンをクリックして下さい。
この説明では仮想ディレクトリ名を imart とします。



5. 物理パスに<%web_path%>を設定し、[次へ] ボタンをクリックして下さい。
<%web_path%>は Web Server Connector をインストールしたディレクトリです。

6. 必要となるアクセス権をチェックし、[次へ] ボタンをクリックして下さい。
以下の2つには、**必ずチェック** をつけて下さい。
■ **読み取り**
■ **ISAPI アプリケーションや CGI を実行する**



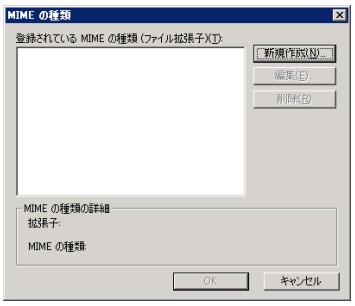
※ ログ出力をする場合は、**書き込み** にチェックをつけて下さい。
※ その他は、任意に設定して下さい。

7. [完了] ボタンをクリックしてください。

8. 上記手順で作成した仮想ディレクトリ「imart」を選択し、右クリックから、「プロパティ」を選択します。

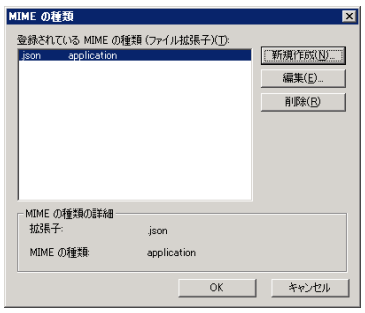
9. HTTP ヘッダータブを選択し、[MIME の種類] ボタンをクリックしてください。

10. [新規作成] ボタンをクリックしてください。



11. [拡張子] に「**json**」と入力し、[MIME の種類] に「**application/json**」と入力して[OK] ボタンをクリックしてください。

● 以下のように設定されていることを確認して、[OK] ボタンをクリックしてください。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

12. Web コンテンツルート（デフォルトでは C:¥Inetpub）に「scripts」ディレクトリを作成してください。
（「scripts」ディレクトリが既に存在する場合は、作成する必要はありません）

13. 上記手順で作成した「scripts」ディレクトリに以下のファイルをコピーします。
（ここでは、一例として 32bit 版を使用します。）

<%web_path%>¥round_robin¥win32¥isapi¥isapi_srun.dll
<%web_path%>¥round_robin¥win32¥isapi¥resin.ini

ただし、Windows Server 2003 SP2 上の IIS6.0 の環境で、resin 3.1.12 に更新されたパッチ 8 以降のパッチが適用されている場合、isapi_srun.dll は以下の resin 3.1.9 の isapi_srun.dll ファイルをコピーしてください。

<%web_path%>¥round_robin¥win32¥isapi¥old¥resin3.1.9¥isapi_srun.dll

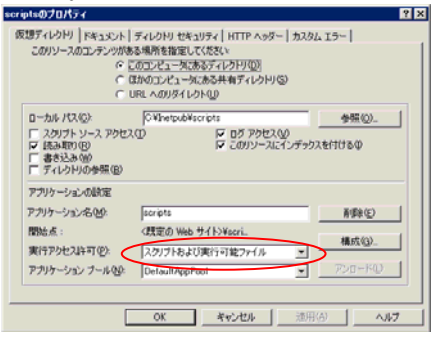
resin 3.1.12 の isapi_srun.dll の内部で、Windows Server 2003 では利用できない WindowsAPI が使用されているため正しく動作しません。ただし、resin 3.1.9 の isapi_srun.dll では「OS を起動してから 49.7 日経過後に接続できなくなる問題(要件 13158)」がありますので、定期的な OS 自体の再起動が必要です。

14. resin.ini を以下のように修正します。

```
ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
CauchoStatus no
IISPriority high
```

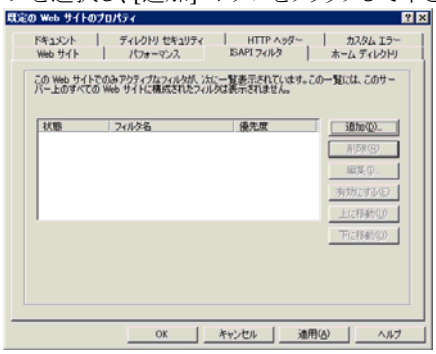
15. 「scripts」ディレクトリを、[既定の Web サイト]の仮想ディレクトリとして作成してください。
（手順(2)～(7)と同様の操作を行ってください。既に存在する場合は、作成する必要はありません。）

16. 上記手順で作成した仮想ディレクトリ「scripts」の実行アクセス許可を「スクリプトおよび実行可能ファイル」に設定してください。



17. [既定の Web サイト]フォルダを選択し、右クリックから、「プロパティ」を選択します。

18. ISAPI フィルタタブを選択し、[追加] ボタンをクリックして下さい。

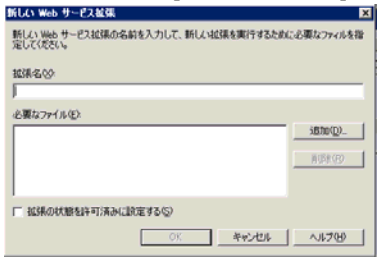


19. [フィルタ名] に「**intra-mart**」と入力し、[実行ファイル] に 13 でコピーしたisapi_srun.dll を指定して、[OK] ボタンをクリックして下さい。

- 以下のように設定されていることを確認してください。
  ISAPI フィルタの「状態」は、ブラウザでアクセスした際に「読み込み済み」となります。
  （優先度もその際に設定されます。）

20. Web サービス拡張を選択し、右クリックから、「新しい Web サービス拡張を追加」を選択します。

21. [フィルタ名] に「**intra-mart**」と入力し、[必要なファイル] に 13 でコピーしたisapi_srun.dll を指定し、[拡張の状態を許可済みに設定する]にチェックして、[OK] ボタンをクリックして下さい。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.3.3 ラウンドロビンの設定

以下の環境でラウンドロビンを行う場合の設定方法を説明します。

※ 詳しくは「Web Platform 設定ガイド」の「ラウンドロビン」を参照してください。

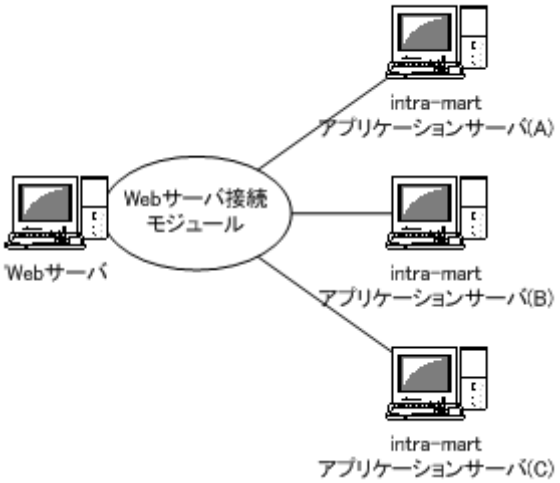


図 3-1

3.3.3.1 http.xmlの設定

<%im_path%> /conf/http.xml の<**server**>タグ、<**http**>タグを追加します。

```
<resin xmlns="http://caucho.com/ns/resin"
      xmlns:resin="http://caucho.com/ns/resin/core">
<cluster>
・・・
  <server id="サーバ(A)の ID " address="サーバ(A)の IP アドレス">
            <cluster-port port="サーバ(A)の WSC と接続するポート番号"/>
  </server>
  <server id="サーバ(B)の ID " address="サーバ(B)の IP アドレス">
            <cluster-port port="サーバ(B)の WSC と接続するポート番号"/>
  </server>
  <server id="サーバ(C)の ID " address="サーバ(C)の IP アドレス">
            <cluster-port port="サーバ(C)の WSC と接続するポート番号"/>
  </server>
・・・
</cluster>
</resin>
```

3.3.3.2 httpd.conf（Apacheの場合）、および、resin.ini（IISの場合）の設定

「3.3.1.1 Apache 2 のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)の編集」で設定したhttpd.conf、および、「3.3.2 IIS6.0 の場合」で設定したresin.iniのResinConfigServerの値を、アプリケーションサーバ(A), (B), (C)のうち、いずれかのサーバのIPアドレスとポート番号を指定します。ここで指定されたサーバの**<%im_path%>** /conf/http.xmlの<server>タグの設定を参照して、Webサーバがアプリケーションサーバを認識します。

3.3.4 その他の設定

3.3.4.1 エイリアスの変更方法

エイリアスを”imart”から”imv7”に変更する方法を説明します。

1. すべてのApplication RuntimeがインストールされているService Platformのhttp.xmlを編集します。
（詳細は「3.3.4.1.1 http.xmlのエイリアスの変更」を参照）
ラウンドロビンを行う場合はすべてのApplication RuntimeがインストールされているService Platformで同じエイリアスに変更してください。
同じエイリアスに変更しないと、ラウンドロビンが正常に機能しません。

2. Webサーバの設定を変更します。
（詳細は「3.3.4.1.2 Webサーバのエイリアス変更」を参照）

3. Schedule ServiceがインストールされているService Platformのimart.xmlを編集します。
（詳細は「3.3.4.1.3 Schedule Service実行時の接続先Application RuntimeのURL変更」を参照）

エンタープライズ for BPM をインストールした場合は、以下の項目も必要となります。

1. Server Manager のbpms-config.xmlを編集します。
(詳細は「3.3.4.1.4 BPMS設定ファイルのエイリアス変更」を参照)

2. <%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/services/各Webサービス用ディレクトリ/META-INF/Webサービス名.wsdlを編集します。 (詳細は「3.3.4.1.5 WSDLファイルのエイリアス変更」を参照)

初期データインポート後、あるいは初期データインポートを実施せずにエイリアスを変更する場合は、以下の項目も必要となります。

1. ポータルのエイリアス情報を編集します。
(詳細は「3.3.4.1.6 ポータル情報のエイリアス変更」を参照)

3.3.4.1.1 http.xmlのエイリアスの変更

http.xml の resin/host/web-app タグの編集を行います。

1. <web-app ・・・・ id="/"> の id は編集しないで下さい。

2. 2つ目の <web-app id="/imart"> の id の値を「**imv7**」に変更してください。
変更前 ： <web-app id="/imart" root-directory="${resin.home}/doc/imart"
redeploy-mode="manual" >
変更後 ： <web-app id="/imv7" root-directory="${resin.home}/doc/imart"
redeploy-mode="manual" >

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.3.4.1.2 Webサーバのエイリアス変更

■ **Apache 2.2 の場合**

1. httpd.confの"/imart"のエイリアスを編集します。
   （詳細は「3.3.1.1 Apache 2 のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)の編集」を参照）

   変更前 ： Alias /imart "<%web_path%>"
   変更後 ： Alias /imv7 "<%web_path%>"

2. Apache 2.2 を再起動します。

■ **IIS 6.0 の場合**

3. 仮想ディレクトリ名を「imv7」として、「3.3.2 IIS6.0 の場合」の設定を再度行ってください。

3.3.4.1.3 Schedule Service実行時の接続先Application RuntimeのURL変更

Schedule Service が動作する Service Platform をインストールしたディレクトリの
conf/imart.xml の intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url タグの編集を行います。

変更前 ： <connection-url>http://192.168.108.1:8080/imart/HTTPActionEventListener<connection-url>
変更後 ： <connection-url>http://192.168.108.1:8080/imv7/HTTPActionEventListener<connection-url>

3.3.4.1.4 BPMS設定ファイルのエイリアス変更

以下の作業はエンタープライズ for BPM 版をインストールした場合のみ必要です。
Server Manager をインストールしたディレクトリの conf/bpms-config.xml の bpms-config/intramart-url タグの編集を行います。

変更前 ： <intramart-url>http://192.168.108.1:8080/imart</intramart-url>
変更後 ： <intramart-url>http://192.168.108.1:8080/imv7</intramart-url>

3.3.4.1.5 WSDLファイルのエイリアス変更

以下の作業はエンタープライズ for BPM 版をインストールした場合のみ必要です。
<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/services/各 Web サービス用ディレクトリ/META-INF/Web サービス名.wsdl の編集を行います (以下は im_workflow.wsdl の例です)。

wsdl:service/wsdl:port/http:address *タグ*

変更前 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imart/services/im_workflow.im_workflowHttpEndpoint"/>
変更後 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imv7/services/im_workflow.im_workflowHttpEndpoint"/>

wsdl:service/wsdl:port/soap:address *タグ*

変更前 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imart/services/im_workflow.im_workflowHttpSoap11Endpoint"/>
変更後 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imv7/services/ im_workflow.im_workflowHttpSoap11Endpoint"/>

wsdl:service/wsdl:port/soap12:address *タグ*

変更前 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imart/services/ im_workflow.im_workflowHttpSoap12Endpoint"/>
変更後 :<http:address
location="http://192.168.108.1:8080/imv7/services/ im_workflow.im_workflowHttpSoap12Endpoint"/>

3.3.4.1.6 ポータル情報のエイリアス変更

以下の作業は初期データインポート後にエイリアスを変更する場合のみ必要です。
エイリアスを変更後に、初期データインポートを実行した場合は必要ありません。
ただしサンプルデータを利用する場合には、サンプルデータインポートのタイミングによらず、必ず以下の作業を行う必要があります。

ポータル機能の情報は、XML ファイルとデータベースで管理しています。
以下の XML ファイルおよびテーブルレコードで「imart」となっている文字列を全て新しいエイリアス名に変更する必要があります。

XML ファイル

- <% Storage Service の root %>/portal/data/portlet-app-registry.xml
- <% Storage Service の root %>/portal/data/portlet-window-preference-registry.xml
- <% Storage Service の root %>/portal/data/portlet-window-registry.xml

データベースのテーブル

- b_m_portlet_info

以上の情報を一括で更新するスクリプトが用意されています。
このスクリプトは、Apache Antを利用しています。Apache Antが環境にインストールされていない場合、別途インストールし、環境変数「ANT_HOME」にインストールしたパスを設定してください。
また、<% Storage Service の root %>配下のファイルに直接アクセス可能である必要があります。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

1. 変更前、変更後のエイリアス、データベースの接続情報など、プロパティファイルの該当する箇所を設定してください。(※ を参照してください。)

◆ プロパティファイル ： <% Storage Service の root %>/portal/tool/change_context.properties

2. 環境に合わせて、バッチファイルを実行してください。

◆ 実行ファイル(Windows の場合) ： <% Storage Service の root %>/portal/tool/change_context.bat

◆ 実行ファイル(Unix の場合) ： <% Storage Service の root %>/portal/tool/change_context.sh

3. 変更の確認
システム管理者でログインし、メニューから「ポートレット管理」を選択し、変更したエイリアスが「コンテキスト」に設定されていることを確認します。

※ プロパティファイルの変更例

```
# StorageService のルートパスを設定します。
storage.root =C:/imart/storage

# 変更前のエイリアス名を指定します。
srch=imart

# 変更後のエイリアス名を指定します。
repl=imv7

# 該当のデータベースのコメントアウトをはずし、接続先の設定を行います。
jdbc.jar=C:/imart/lib/ojdbc5.jar
jdbc.driver=oracle.jdbc.OracleDriver
jdbc.url=jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:orcl
jdbc.user=imart
jdbc.password=imart
```

3.3.4.2 自作Webアプリケーションの登録

<%usr_path%> にサーブレット HelloServlet.class を含む Web アプリケーションを配置する方法について説明します。

HelloServlet.class を呼び出す URL を「**/usr/hello**」とします。

サーブレットを呼び出す URL は「**http://ホスト名[:ポート]/usr/hello**」となります。

（注意） 自作アプリケーションからは、**intra-mart** 独自の **API** を使用することができません。

1. **<%usr_path%>**/WEB-INF/classes に HelloServlet.class をコピーします。
   サーブレットを jar ファイルにまとめた場合は、
   代わりに **<%usr_path%>/WEB-INF/lib** にコピーして下さい。

2. **<%usr_path%>/WEB-INF/web.xml** を作成し、以下のように編集します。

```
<web-app>
    <servlet>
        <servlet-name>hello-servlet</servlet-name>
        <servlet-class>HelloServlet</servlet-class>
        <load-on-startup/>
    </servlet>

    <servlet-mapping>
        <servlet-name>hello-servlet</servlet-name>
        <url-pattern>/hello</url-pattern>
    </servlet-mapping>
</web-app>
```

3. 仮想ディレクトリにマップします。Application Runtime が動作する Service Platform の http.xml の resin/cluster/host/web-app タグ内の最後に以下を追加します。
   <web-app id="/usr" root-directory="<%usr_path%>" />
   web-app を書くことで、マップされた実際のディレクトリの WEB-INF/classes 以下にあるサーブレットを認識するようになります。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.3.4.3 ログイン画面のURL変更

デフォルトでは以下の URL にてログイン画面が表示されますが、この名前を変更する方法を解説します。

ログインタイプ	URL
システム管理者	**http://サーバ名[:ポート]/imart/system.admin**
ログイングループ管理者	**http://サーバ名[:ポート]/imart/ログイングループ ID.manager**
一般ユーザ(パソコン)	**http://サーバ名[:ポート]/imart/ログイングループ ID.portal**
一般ユーザ(モバイル)	**http://サーバ名[:ポート]/imart/ログイングループ ID.mobile**

3.3.4.3.1 システム管理者のログイン画面

■ **<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml の変更**

web.xml で、

```
<servlet-mapping>
    <servlet-name>SuperUserInitialServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/system.admin</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

と、記述されている箇所を、以下のように変更します。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name>SuperUserInitialServlet</servlet-name>
<url-pattern>/変更したい名前</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

3.3.4.3.2 グループ管理者のログイン画面

■ **<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml の変更**

web.xml で、

```
<servlet-mapping>
    <servlet-name>GroupSuperUserInitialServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/*.manager</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

と、記述されている箇所を、以下のように変更します。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name>GroupSuperUserInitialServlet</servlet-name>
<url-pattern>/*.変更したい名前</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

3.3.4.3.3 一般ユーザ（パソコン）のログイン画面

■ **<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml の変更**

web.xml で、

```
<servlet-mapping>
    <servlet-name>UserInitialServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/*.portal</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

と、記述されている箇所を、以下のように変更します。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name>UserInitialServlet</servlet-name>
<url-pattern>/*.変更したい名前</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

3.3.4.3.4 一般ユーザ（モバイル）のログイン画面

■ **<%im_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml の変更**

web.xml で、

```
<servlet-mapping>
    <servlet-name>UserInitialServletForMobile</servlet-name>
    <url-pattern>/*.mobile</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

と、記述されている箇所を、以下のように変更します。

```
<servlet-mapping>
<servlet-name>UserInitialServletForMobile</servlet-name>
<url-pattern>/*.変更したい名前</url-pattern>
</servlet-mapping>
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.4 JBossの設定

IWP(JBoss)を JBoss Application Server(以下 JBoss)で利用できるように設定を行います。
ここでは、JBoss をインストールしたディレクトリを **<%JBoss_path%>** と表記します。
また、Application Runtime をインストールしたディレクトリを **<%im_path%>** と表記します。

JBoss を稼働させる場合には以下の条件を満たしている必要があります。

- ◆ JBoss に DataSource が登録されていること。
- ◆ デプロイする WAR ファイルが存在すること。
- ◆ <% Server Manager の root %>/conf/data-source.xml が設定されていること。

これらの条件を満たしている環境で、WAR ファイルのデプロイを行います。

3.4.1 JBossのデプロイ例

ここでは、コンテキストルートを「/imart」として説明します。

JBoss のデプロイ手順を、以下に示します。

1. 環境変数「JAVA_HOME」の設定
   （詳細は「3.4.2 環境変数「JAVA_HOME」の設定」を参照）
2. 「imart」ディレクトリの作成
   （詳細は「3.4.3「imart」ディレクトリの作成」を参照）
3. im_portal_commonの組み込み
   （詳細は「3.4.4 im_portal_commonの組み込み」を参照）
4. WARファイルの作成
   （詳細は「3.4.5 WARファイルの作成」を参照）
5. データソース設定
   （詳細は「3.4.6 データソース設定」を参照）
6. WARファイルのデプロイ
   （詳細は「3.4.7 WARファイルのデプロイ」を参照）

※ コンテンツの変更やクラスの再コンパイル等を行った場合は、WAR ファイルの作成、および、デプロイが再度必要となります。

※ 5. は毎回行う必要はありません。

3.4.2 環境変数「JAVA_HOME」の設定

環境変数「JAVA_HOME」を設定します。

3.4.3 「imart」ディレクトリの作成

<%**JBoss_path**%> /server/default ディレクトリをコピーして、

<%**JBoss_path**%> /server/の直下に「imart」という名前のディレクトリを作成します。

3.4.4 im_portal_commonの組み込み

im_portal_common を組み込み、intra-mart のポータルを有効にする設定を行います。

以下の手順に従って、設定ファイルを編集してください。

1. <%**JBoss_Path**%>server/imart/conf/jboss-service.xml ファイルを開きます。
2. 以下の記述を追加します。

```
<classpath codebase="<%im_path%>/bin/im_portal_common" archives="*"/>
```

※ 注意

環境が Windows である場合は、codebase の先頭に file:/ を付けないと、

サーバ起動時にエラーが発生する場合があります。

(例)

```
<classpath codebase="file:/C:/imart/v7.0/iAF/imart/bin/im_portal_common" archives="*"/>
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.4.5 WARファイルの作成

JBoss の WAR ファイルを作成します。
コンテンツの変更やクラスの再コンパイル等を行った場合、この作業が必ず必要となります。

1. コンソール画面で以下のディレクトリに移動します。
   <%im_path%>/bin

2. 以下のコマンドを実行して WAR ファイルを作成します。

```
zippack　-o　<WAR ファイル名>　<コンテキストルートパス>
```

［例］

Windows	:	zippack　-o　..¥imart.war　..¥doc¥imart
UNIX	:	zippack.sh　-o　../imart.war　../doc/imart

```
$ cd <%im_path%>/bin
$ ./zippack.sh -o ../imart.war ../doc/imart
```

このコマンドを実行することで、**<%im_path%>/imart.war** として **WAR** ファイルが作成されます。

3.4.6 データソース設定

ここでは PostgreSQL を利用する際の設定例を説明します。(他のデータベースも同様に設定できます。)
以下の手順でデータソースの設定を行ってください。

1. hsqldb-ds.xml の削除
   JBoss にデフォルトで存在するデータソース設定ファイルを削除します。
   <%**JBoss_path**%> /server/imart/deploy/hsqldb-ds.xml
2. PostgreSQL 用のデータソース設定ファイルコピー
   <%**JBoss_path**%>/docs/examples/jca/postgres-ds.xml ファイルを
   <%**JBoss_path**%> /server/imart/deploy/配下にコピーします。
3. postgres-ds.xml の編集
   <%JBoss_path%>/server/imart/deploy/postgres-ds.xml を以下の様に変更します。

```
<datasources>
<local-tx-datasource>
 ・
 ・
 ・
<jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
<connection-url>jdbc:postgresql://<%PostgreSQL のアドレス%>:<%ポート番号%>/<%データベース名%></connection-url>
<driver-class>org.postgresql.Driver</driver-class>
<user-name>DB 接続ユーザ名</user-name>
<password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
<metadata>
<type-mapping>PostgreSQL 8.3</type-mapping>
</metadata>
 ・
 ・
 ・
</local-tx-datasource>
</datasources>
```

4. PostgreSQL の JDBC ドライバを**<%JBoss_path%>**/server/imart/lib に配置します。

3.4.7 WARファイルのデプロイ

1. WARファイルを配置します。
   手順「3.4.5 WARファイルの作成」で作成したWARファイルを
   <%JBoss_path%> /server/imart/deploy/の直下に配置します。

2. data-source.xmlの編集
   <% Server Manager のroot %>/conf/data-source.xmlを編集します。
   詳細は「3.5.3 data-source.xmlの設定」を参照してください。

3. **IWP**のすべてのサーバを起動します。
   【重要】 Server Managerおよび Service Platform（分散構成時のみ）が起動していないと、デプロイが成功しません。
   （Server ManagerおよびService Platformの起動については「4 起動と停止」 を参照してください。）

4. JBoss を起動します。
   ※ 既に起動されている場合は、再起動してください。

   <%JBoss_path%>/bin に移動し、以下のコマンドを実行して JBoss を起動します。

```
run -c imart -b 0.0.0.0 ↵
```

［例］

Windows	:	run -c imart -b 0.0.0.0
UNIX	:	./run.sh -c imart -b 0.0.0.0

以上で、自動的にデプロイが完了します。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.5 データベース接続の設定

intra-mart はデータベースに JDBC 経由で接続します。

データベースに関する各設定、および、データベースへの接続に関する注意点は、本製品に付属のリリースノートに記載されている制限事項をお読みください。

3.5.1 準備

本製品が接続するためのアカウントをデータベース側に準備しておいてください。

また、本製品がデータを保存するために利用する表領域を十分に確保しておいてください。

※ **Oracle** 利用時の注意点
CREATE VIEW 権限 が付与されていることを確認してください。
Oracle Database 11g Release 1 では、CONNECT ロールには CREATE VIEW 権限が予め付与されておりません。そのため、CREATE VIEW 権限を明示的に付与する必要があります。
Oracle11gでの表領域およびユーザ登録方法の例を、「付録D Oracle11gでの表領域、およびユーザの作成方法（120ページ）」にて説明しています。あわせて、ご参照ください。

※ **Microsoft SQL Server** 利用時の注意点
照合順序を設定し、大文字・小文字を区別する設定でデータベースを作成することを推奨します。
また、文字コードを「UNICODE」で運用している場合、<% Storage Service の root %>/system/basic/ 配下にある SQL ファイル内のカラム型「VARCHAR」を「NVARCHAR」に変更してください。

※ **PostgreSQL** 利用時の注意点
弊社では、文字エンコーディングを「EUC_JP」に設定したデータベースでのみ動作試験を行っております。

※ **DB2** 利用時の注意点
データベース作成時、「デフォルトのバッファー・プールと表スペースのページ・サイズ」に「32k」を設定する必要があります。

3.5.1.1 Oracle Database 11g リリース 1 (11.1) 以降の注意点

DB の DATE 型フィールドを、スクリプト開発モデル API「DatabaseManager」で取得する際、Oracle のバージョン(JDBC ドライバのバージョンを含む)によって異なる JavaScript 型が返却されます。

3.5.1.1.1 事象

Oracle Database 11g リリース 1 (11.1) より、デフォルトで「oracle.sql.DATE」が「java.sql.Timestamp」にマッピングされるようになりました。(なお、Oracle Database 9.0.1 から 11.0 では、「oracle.sql.DATE」が「java.sql.Date」にマッピングされていました)

この影響により、DB の DATE 型フィールドを、スクリプト開発モデル API「DatabaseManager」で取得する場合、Oracle のバージョン(JDBC ドライバのバージョンを含む)によって異なる JavaScript 型が返却されます。

具体的には、

- Oracle Database 9.0.1 から 11.0 を利用している場合は、JavaScript の Date 型が返却され、
- Oracle Database 11.1 以降 を利用している場合は、JavaScript の String 型が返却されます。

3.5.1.1.2 対応方法

Java のシステムプロパティ「**oracle.jdbc.mapDateToTimestamp**」を **false** に設定してください。
具体的には、ApplicationRuntime の conf/imart.xml「intramart/platform/java/server/command/option」を以下のように編集してください。

- 修正前

```
<option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XMX% -Djava.awt.headless=true
 -Dcom.sun.management.jmxremote</option>
```

- 修正後

```
<option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XMX% -Djava.awt.headless=true
 -Dcom.sun.management.jmxremote -Doracle.jdbc.mapDateToTimestamp=false</option>
```

Java のシステムプロパティ「oracle.jdbc.mapDateToTimestamp」の詳細は Oracle のドキュメントをご参照ください。
Oracle Database JDBC 開発者ガイドおよびリファレンス 11g リリース 1(11.1)- [A リファレンス情報] - [埋込み SQL92 構文] - [Oracle オブジェクト型から SQL DATE データ型へのマッピング]

(http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oracle11g/111/doc_dvd/java.111/E05720-02/apxref.htm#i1005144)

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.5.2 http.xmlの設定

1. Application Runtime が動作する Service Platform をインストールしたディレクトリの
   <%im_path%>/lib
   ディレクトリに、**JDBC ドライバファイル（jar または zip）** をコピーしておきます。

2. <% Application Runtime の root %>/conf/http.xml を編集します。
   http.xml の resin/cluster タグの中に、<database>タグをご利用のデータベースに合わせて設定してください。（http.xml の 180 行目付近から設定のサンプルがあります）
   ラウンドロビンを行う場合はすべての Application Runtime がインストールされている Service Platform に設定してください。

■ **Oracle の場合**

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>oracle.jdbc.pool.OracleConnectionPoolDataSource</type>
    <url>jdbc:oracle:thin:@<%Oracle のアドレス%>:<%ポート番号%>:<%インスタンス名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

■ **IBM DB2 (Type4 JDBC ドライバ) の場合**

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>com.ibm.db2.jcc.DB2Driver</type>
    <url>jdbc:db2://<%DB2 のアドレス%>:<%ポート番号%>/<%DB2 のデータベース名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

■ **Microsoft SQL Server 2005 の場合**

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver</type>
    <url>jdbc:sqlserver://<%SQL Server のアドレス%>:<%ポート番号%>;DatabaseName=<%データベース名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
    <init-param>
      <param-name>SelectMethod</param-name>
      <param-value>cursor</param-value>
    </init-param>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

■ PostgreSQL の場合

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>org.postgresql.Driver</type>
    <url>jdbc:postgresql://<%PostgreSQL のアドレス%>:<%ポート番号%>/<%データベース名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.5.3 data-source.xmlの設定

<% Server Manager の root %>/conf/data-source.xml を編集します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>

    <system-data-source>
        <connect-id>default</connect-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </system-data-source>

    <group-data-source>
        <login-group-id>default</login-group-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </group-data-source>

</data-source>
```

（例：IWP で Resin を利用している場合）

「3.5.2 http.xmlの設定」で設定したデータソース参照名が"jdbc/sample"のとき

<resource-ref-name>**java:comp/env/**jdbc/sample</resource-ref-name>　となります。

（例：IWP で JBoss を利用している場合）

「3.4.6　データソース設定」で設定したデータソース参照名が"jdbc/sample"のとき

<resource-ref-name>java:jdbc/sample</resource-ref-name>　となります。

システムデータベースの設定 <system-data-source>

（マルチデータベース）複数設定可能です。すべてのログイングループが利用できるデータベースです。

system-data-source	システムデータベースのデータソース設定を行います。
connect-id	接続 ID（system-data-source でユニークなもの）
resource-ref-name	データソースを表す jndi 名の設定を行います。

ログイングループデータベースの設定 <group-data-source>

ログイングループ毎に 1 つのみ設定します。ログイングループのデフォルトデータベースとなります。

group-data-source	ログイングループデータベースのデータソース設定を行います。
login-group-id	ログイングループ ID
resource-ref-name	データソースを表す jndi 名の設定を行います。

※　データベースの設定を変更した場合は、アプリケーションランタイムの再起動が必要です。

3.6 JavaMailおよびJAF(Javabeans Activation Framework)について

intra-mart で提供しているメール送信 API を利用するには、以下のライブラリが必要です。

- JavaMail 1.4.1
- JAF(Javabeans Activation Framework) 1.1.1

intra-mart をインストールすると、上記のライブラリもインストールされます。intra-mart の使用は、上記のライセンスにも同意したものとします。これらの条項に同意できない場合は、それらすべての JAR ファイルを削除してください。

最新モジュールは下記 URL よりダウンロードすることが出来ます。（2010 年 11 月 22 日現在）

JavaMail	http://www.oracle.com/technetwork/java/index-jsp-139225.html
JAF	http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index-135046.html

解凍後のライブラリを以下のディレクトリにコピーします。ラウンドロビンを行う場合は、すべての Application Runtime がインストールされている Service Platform にコピーしてください。

<% Application Runtime の root %>/doc/imart/WEB-INF/lib/

- activation.jar
- dsn.jar
- imap.jar
- mail.jar
- mailapi.jar
- pop3.jar
- smtp.jar

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.7 携帯端末の利用について

3.7.1 かんたんログイン機能の利用について

かんたんログイン機能では、モバイル端末個体識別番号での認証に加え、かんたんログイン用ログインページの URL に自動的に付加したアクセスキーと iWP/iAF で保持しているアクセスキーでの認証が行われます。

モバイルパスワードを変更すると、アクセスキーも変更されます。これにより、以前アクセスしていた古いアクセスキー付き URL ではログインできないようになります。

定期的にモバイルパスワードを変更されない場合は、携帯電話に保存した URL から、かんたんログインが可能ですので、かんたんログイン用ログインページの URL を他人に知られないようご注意ください。

なお、かんたんログイン機能をご利用の場合は、Web サーバで、**携帯電話からしかアクセスできないよう IP アドレス制限を実施していただく事をおすすめいたします。**Web サーバで、IP アドレス制限をかける場合は、各携帯電話会社のホームページなどをご確認いただき、各携帯電話会社のサーバの IP アドレス帯域からのアクセスのみ許可する設定をお願いいたします。

以降、かんたんログイン機能を利用する際に必要な設定について説明します。

3.7.1.1 NonceResetListener4MobileEasyLoginクラスの登録

かんたんログイン機能を利用する場合は、NonceResetListener4MobileEasyLogin クラスを、 <% Server Manager の root %>/conf/access-security.xml に設定する必要があります。NonceResetListener4MobileEasyLogin の設定は、かんたんログインのセキュリティを向上させる為に必要です。設定されていない場合は、かんたんログイン用のアクセスキー取得時に、 AccessSecurityConfigException がスローされて、かんたんログイン機能を利用する事ができません。以下に設定例を記載します。

■ 修正前

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<access-security>

  <access-config>
    ・
    ・
    <account>
      <accessor>
        <accessor-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.StandardAccountAccessor</accessor-class>
<!--
        <init-param>
          <param-name>cryption-class</param-name>
          <param-value>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption.NoCryption</param-value>
        </init-param>
-->
      </accessor>
    </account>
    ・
    ・
```

■ 修正後

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<access-security>

  <access-config>
    ・
    ・
    <account>
      <accessor>
        <accessor-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.StandardAccountAccessor</accessor-class>
<!--
        <init-param>
          <param-name>cryption-class</param-name>
          <param-value>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption.NoCryption</param-value>
        </init-param>
-->
      </accessor>
      <query-writer-listener>
        <writer-listener-class>
          jp.co.intra_mart.foundation.security.mobile.NonceResetListener4MobileEasyLogin
        </writer-listener-class>
      </query-writer-listener>
      <post-writer-listener>
        <writer-listener-class>
          jp.co.intra_mart.foundation.security.mobile.NonceResetListener4MobileEasyLogin
        </writer-listener-class>
      </post-writer-listener>
    </account>
    ・
    ・
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.7.1.2 parameter.xmlのパラメータ「im.web_server.url」の設定

かんたんログイン用の URL は以下の形式です。
（詳しくは、jp.co.intra_mart.foundation.security.mobile.MobileEasyLoginUtil の API リストを参照してください。）

```
${Web サーバの URL} + ${コンテキストパス} + "/" + ${ログイングループ ID} + ${モバイル用拡張子} + "?" + ${アクセスキー}
```

${Web サーバの URL}は、<% Server Manager の root %>/conf/parameter.xml の「im.web_server.url」で設定可能です。Apache 等の Web サーバを利用している場合は、適宜設定してください。以下に設定例を記載します。

■ 設定例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<system-param>
  ・
  ・
  <param>
    <param-name>im.web_server.url</param-name>
    <param-name>http://{Web サーバのホスト名}:{Web サーバのポート番号}</param-name>
  </param>
  ・
  ・
```

4 起動と停止

4.1 起動と停止の順番について

4.1.1 intra-mart WebPlatform(Resin) の場合

サーバの起動および停止には順番があります。
起動順を守らなくてもサーバ動作に支障はありませんが、Application Runtime が動作する Service Platform 起動時に、ネットワークエラーが発生することがあります。（ネットワークエラーがエラーログに記録されます）

■ サーバの起動順（推奨）
1. Server Manager
2. Service Platform

■ サーバの停止順（推奨）
1. Service Platform
2. Server Manager

4.1.2 intra-mart WebPlatform(JBoss)の場合

運用するサーバの構成（スタンドアロン、またはネットワーク分散型）により、サーバの起動および停止の順番に違いがあります。
起動順を守らなくてもサーバ動作に支障はありませんが、Application Runtime が動作する JBoss Application Server 起動時に、ネットワークエラーが発生することがあります（ネットワークエラーがエラーログに記録されます）。

スタンドアロン環境の場合

■ サーバの起動順（推奨）
1. Server Manager
2. JBoss Application Server（全 Service Platform）

■ サーバの停止順（推奨）
1. JBoss Application Server（全 Service Platform）
2. Server Manager

ネットワーク分散型環境の場合

■ サーバの起動順（推奨）
1. Server Manager
2. Service Platform
3. JBoss Application Server（Application Runtime）

■ サーバの停止順（推奨）
1. JBoss Application Server（Application Runtime）
2. Service Platform
3. Server Manager

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.2 Server Manager／Service Platformの起動・停止方法

4.2.1 Windowsの場合

4.2.1.1 スタートメニューから起動させる場合

Windows でインストールを行うと、コマンドプロンプトでサーバを起動するメニューが追加されます。

[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart WebPlatform Ver7.0] の

intra-mart Server Manager

intra-mart Service Platform

各サーバの起動メニューの実体は、以下のバッチファイルです。

Server Manager : % Server Manager をインストールしたパス%¥bin¥**manager.bat**

Service Platform : % Service Platform をインストールしたパス%¥bin¥**server.bat**

本製品では、各.bat ファイルを編集する必要はありませんが

各サーバの起動コマンドを変更したい場合は、各サーバ用の.bat ファイルを編集してください。

Server Manager は、コマンドプロンプト上に**[Server-Manager started offer of service]** というメッセージが表示されれば起動完了です。

Service Platform は、コマンドプロンプト上に **[Service-Platform started offer of service]** というメッセージが表示されれば起動完了です。

停止させるときは、コマンドプロンプト上で［**Ctrl+C**］キーを押してください。

4.2.1.2 Windowsのサービスとして動作させる場合

各サーバ（Server Manager、 Service Platform）は Windows のサービスプログラムとして登録することが可能です。

4.2.1.2.1 注意事項

- Windows のサービスとして動作させる場合、サービス起動後、ログアウトを行うと、サーバが停止してしまう現象があります。これを回避する方法は、起動する各サーバの設定を以下のように行ってください。

  <%im_path%>/conf/imart.xml の
  intra-mart/platform/java/server/command/option の項目に
  -Xrs オプションを追加してください。

- インストール直後は、まずコマンドプロンプトで各サーバを起動させて、正常に動作することを確認してから、サービスの登録（詳細は「4.2.1.2.3 サーバのサービス化」を参照）を行ってください。

- プログラムの開発中はコマンドプロンプトで動作させることをお勧めします。
  （コマンドプロンプトにエラーメッセージなどが出力されますので、問題解決に役立ちます）

4.2.1.2.2 intra-mart ServiceManagerの起動

各サーバを Windows のサービスプログラムとして登録するには、**intra-mart ServiceManager** を使用します。

Windows に intra-mart をインストールすると、**intra-mart ServiceManager** の起動メニューが追加されます。
以下の起動メニューより、intra-mart Service Manager を起動して下さい。

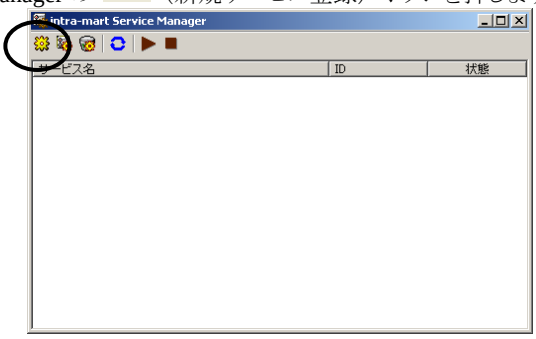
[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart WebPlatform Ver7.0]-[Admin Tools**]** の
intra-mart ServiceManager

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.2.1.2.3 サーバのサービス化

intra-mart ServiceManager を起動後、以下の手順でサーバのサービス化を行って下さい。

1. ServiceManager の （新規サービス登録）ボタンを押します。

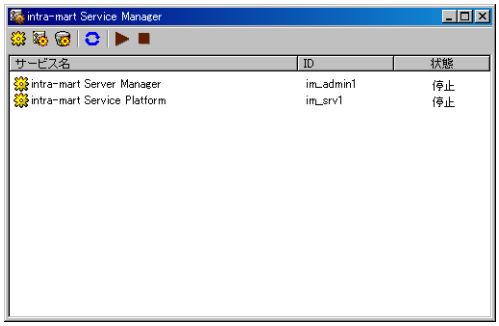


2. [イントラマートインストールディレクトリ]に、サーバをインストールしたパスを入力します。
（ ボタンを押すと、ディレクトリより選択することもできます。）
サービス化できるサーバが表示されます。

3. サービス化するサーバを選択し、[登録] ボタンを押します。

4. 「サービス名称確認」画面が表示されます。必要であればサービス名称を変更してください。
[OK] ボタンを押すとサービスが登録されます。

5. 登録したサーバが表示されていれば、サーバのサービス化は完了です。



4.2.1.2.4 サービス起動設定ファイルについて

intra-mart を Windows のサービスとして動作させる際の設定ファイルが以下に用意されています。

- ServerManager のサービス起動設定ファイル
  - **<%im_path%>/bin/MgrService.ini**

ServicePlatform のサービス起動設定ファイル

- **<%im_path%>/bin/SrvService.ini**

サービス起動設定ファイルの設定項目は以下の通りです。

設定項目	説明
jdk_home	JDK のホームディレクトリ
class	起動クラス
options	Java 起動オプション
log	ログ出力オプション

4.2.1.2.4.1.1 設定項目「jdk_home」について

設定項目 **jdk_home** に関する動作は以下の通りです。

- サービス起動設定ファイルにて **jdk_home** の設定を行った場合、
  <%**jdk_home** の設定ディレクトリ%>/bin/java.exe を利用して、Windows サービスの起動を行います。
- サービス起動設定ファイルの **jdk_home** の設定を省略した場合は、OS 環境変数「**JAVA_HOME**」を JDK のホームディレクトリとみなします。
- OS 環境変数「**JAVA_HOME**」が未設定の場合は、レジストリからカレントの JDK ホームディレクトリを取得します。

4.2.1.2.4.1.2 ログ出力方法

Windows サービスにて intra-mart を起動した際のログは以下のように出力されます。

4.2.1.2.4.1.2.1 ServerManager のログ

ログファイル	説明
<%im_path%>/log/MgrService/environment.log	サービス起動時の環境ログ
<%im_path%>/log/MgrService/stderr.log	起動中の標準エラー出力のログ
<%im_path%>/log/MgrService/stdout.log	起動中の標準出力のログ**(※1)**

4.2.1.2.4.1.2.2 ServicePlatform のログ

ログファイル	説明
<%im_path%>/log/SrvService/environment.log	サービス起動時の環境ログ
<%im_path%>/log/SrvService/stderr.log	起動中の標準エラー出力のログ
<%im_path%>/log/SrvService/stdout.log	起動中の標準出力のログ**(※1)**

(※1) stdout.log は、サービス起動設定ファイルの設定項目「log」が「**true**」に設定されている場合のみ出力します。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.2.2 UNIX系OSの場合

4.2.2.1 シェルで動作させる場合

4.2.2.1.1 Server Manager の起動と停止

シェルを起動します。

<%im_path%>/bin に移動して、以下のコマンドを実行します。

```
./manager.sh ↵
```

コマンドプロンプト上に **[Server-Manager started offer of service]** というメッセージが表示されれば起動完了です。

※ システムログの出力を有効にしているときのみ表示されます（デフォルトは有効）。

（注意）インストール時に用意されている 起動コマンドファイル（manager.sh） はサンプルです。
環境に合わせて内容を変更する必要があります。

停止させるときは、シェル上で［**Ctrl+C**］キーを押してください。

4.2.2.1.2 Service Platform の起動と停止

シェルを起動します。

<%im_path%>/bin に移動して、以下のコマンドを実行します。

```
./server.sh ↵
```

コマンドプロンプト上に **[Service-Platform started offer of service]** というメッセージが表示されれば起動完了です。

※ システムログの出力を有効にしているときのみ表示されます（デフォルトは有効）。

（注意）インストール時に用意されている 起動コマンドファイル（server.sh） はサンプルです。
環境に合わせて内容を変更する必要があります。

停止させるときは、シェル上で［**Ctrl+C**］キーを押してください。

4.2.2.2 バックグラウンド実行させる場合

各サーバ（Server Manager、Service Platform）はバックグラウンド実行することが可能です。

4.2.2.2.1 注意事項

- インストール直後は、まずシェルで各サーバを起動させて、正常に動作することを確認してから、以下のバックグラウンド実行の作業を行ってください。
  （詳細は「4.2.2.2.2 Server Managerのバックグラウンド実行」および「4.2.2.2.3 Service Platformのバックグラウンド実行」を参照）
- プログラムの開発中はシェルで動作させることをお勧めします。
  （シェルにエラーメッセージなどが出力されますので、問題解決に役立ちます）
- 各シェルファイルのサンプルには、バックグラウンド実行による起動コマンドの例が コメント（#）で記述されています。バックグラウンド実行する場合はコメント部分（#）を参考に、内容を変更してご使用ください。

4.2.2.2.2 Server Managerのバックグラウンド実行

<%im_path%>/bin ディレクトリに、以下のファイルがあります。

manager.sh （シェルファイルのサンプル）

※ manager.sh はバックグラウンド実行のサンプルですので、
システム環境に合わせてファイル名、内容などを変更してご使用ください。

- 起動方法（例）
  起動 ： **./manager.sh start**
  停止 ： **./manager.sh stop**

4.2.2.2.3 Service Platformのバックグラウンド実行

<%im_path%>/bin ディレクトリに、以下のファイルがあります。

server.sh （シェルファイルのサンプル）

※ server.sh はバックグラウンド実行のサンプルですので、
システム環境に合わせてファイル名、内容などを変更してご使用ください。

- 起動方法（例）
  起動 ： **./server.sh start**
  停止 ： **./server.sh stop**

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3 JBossの起動・停止方法

IWP(JBoss) をご利用の場合、JBoss Application Server の起動が必要となります。

Application Runtime は JBoss Application Server 上で起動します。Application Runtime を起動する場合、あらかじめ Server Manager および ServicePlatform (分散構成時のみ)が起動されている必要があります。
JBoss Application Server の起動・停止方法については、JBoss Application Server のマニュアルを参照してください。

4.3.1 JBossでOutOfMemoryErrorが発生した場合

IWP(JBoss)をインストール時の ServicePlatform の初期ヒープサイズや最大ヒープサイズによって OutOfMemory が発生した場合、次の方法でメモリを再指定する起動オプションが設定できます。

<%**JBoss_path**%>/bin/run.conf ファイルに以下の内容を追記します。

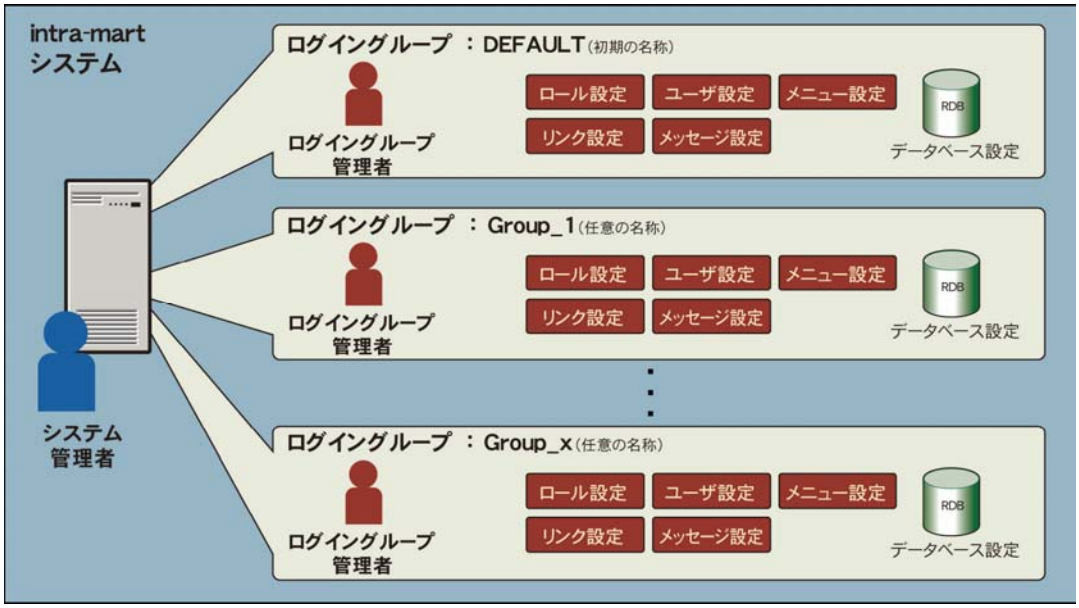
＜例 run.conf＞

```
・・・
#
# Specify options to pass to the Java VM.
#
if [ "x$JAVA_OPTS" = "x" ]; then
    JAVA_OPTS="-Xms128m -Xmx512m -Dsun.rmi.dgc.client.gcInterval=3600000 -Dsun.rmi.dgc.serv
er.gcInterval=3600000"
fi

JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -XX:PermSize=128M -XX:MaxPermSize=256M"

# Sample JPDA settings for remote socket debuging
#JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -Xrunjdwp:transport=dt_socket,address=8787,server=y,suspend=n"
```

※ ヒープサイズの数値等は、お使いの環境に合わせて設定してください。

5 intra-mart へのログイン

intra-mart Ver7.0 では、共同で利用するそれぞれのグループを「ログイングループ」、その管理者を「ログイングループ管理者」と呼んでいます。そして、これら「ログイングループ」や「ログイングループ管理者」を統括管理するのが「システム管理者」です。



本章では、ログイングループ管理者で intra-mart にログインするまでの手順を説明します。

1. システム管理者でログイン
   (詳細は「5.1 システム管理者でログイン」を参照)
2. ログイングループの作成
   (詳細は「5.2 ログイングループの作成」を参照)
3. 初期データインポート
   (詳細は「5.3 初期データインポート」を参照)
4. ログイングループ管理者でログイン
   (詳細は「5.4 ログイングループ管理者でログイン」を参照)

■ intra-mart の理解をさらに深めるため、本製品に付属の以下のドキュメントをご参照ください。

- ◆ チュートリアルガイド
- ◆ アドミニストレータ・ガイド
- ◆ プログラミング・ガイド

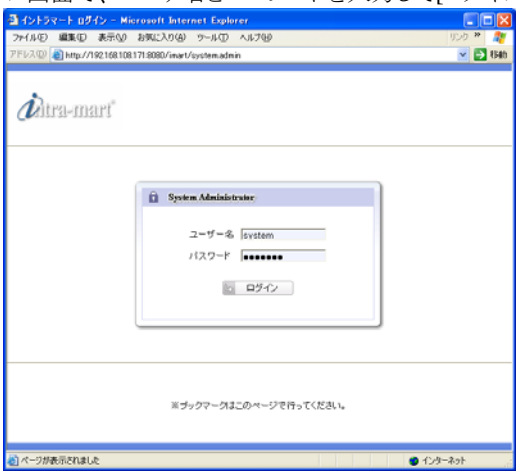
5.1 システム管理者でログイン

システム管理者は、以下の手順に従って intra-mart にログインします。

1. ブラウザから、以下のような URL を発行します。
   http:// ホスト名:ポート番号 / エイリアス名 / system.admin
   （例） http://hostname:8080/imart/system.admin

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

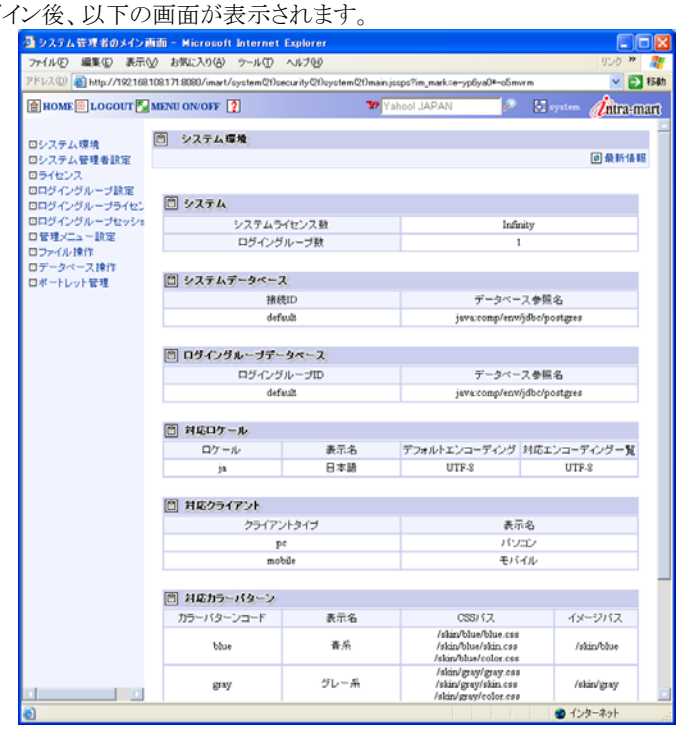
2. ログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力して[ログイン]ボタンをクリックします。



インストール直後のシステム管理者のユーザ名とパスワードは次のようになっています。

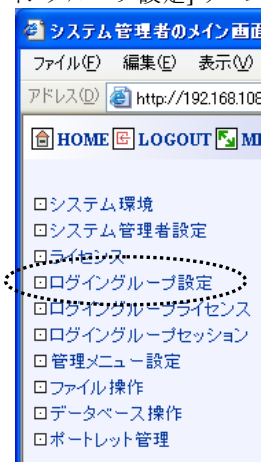
ユーザ名	system
パスワード	manager

ログイン後、以下の画面が表示されます。

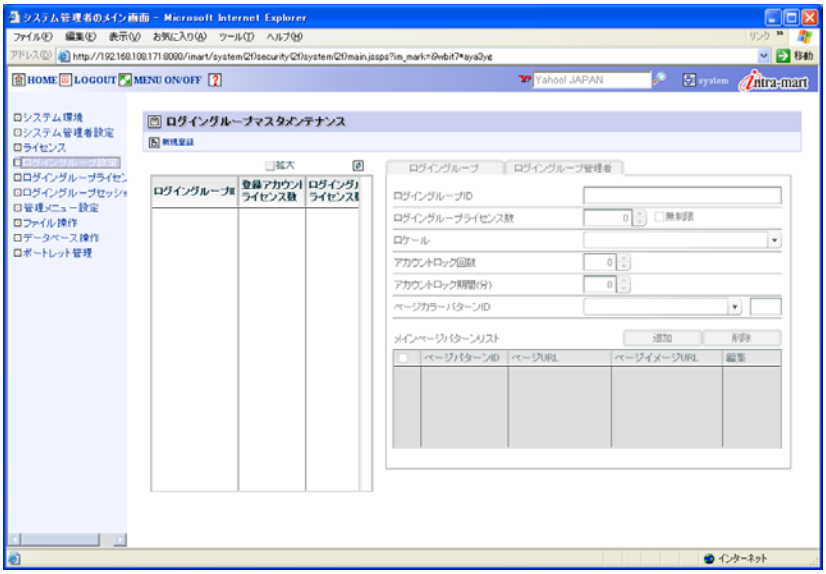


5.2 ログイングループの作成

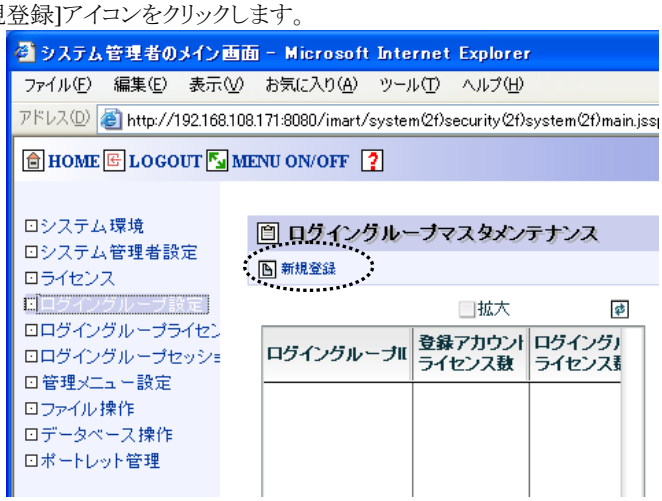
1. [ログイングループ設定] メニューを選択します。



以下の画面が表示されます。



2. [新規登録]アイコンをクリックします。

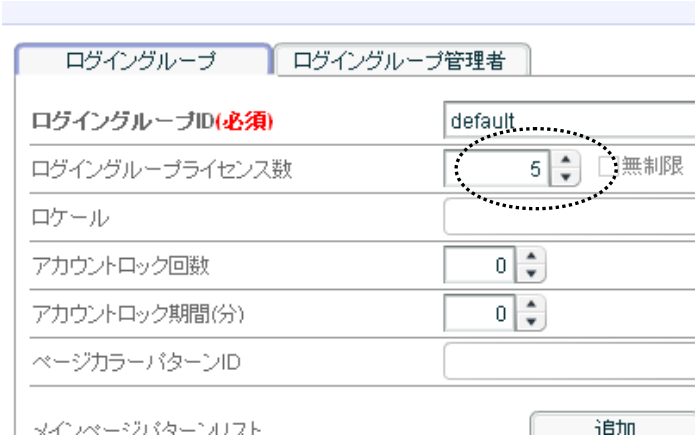


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

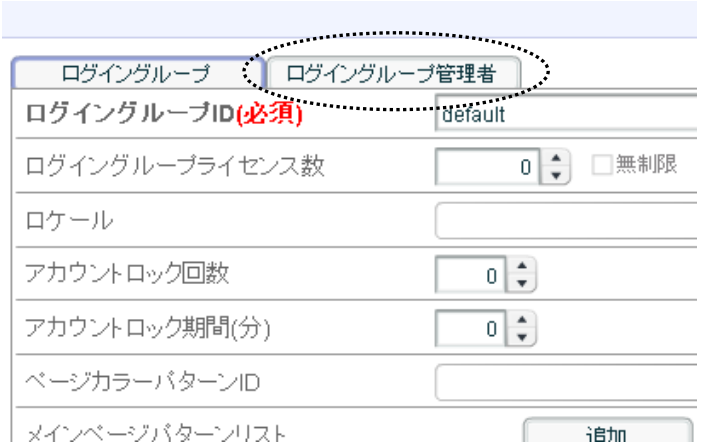
3. 「ログイングループID」を入力します。
ログイングループIDは、<% Server Manager の root %>/conf/data-source.xml の data-source/group-data-source/login-group-id の設定と同じIDを設定します。

ここでは、「default」と入力します。

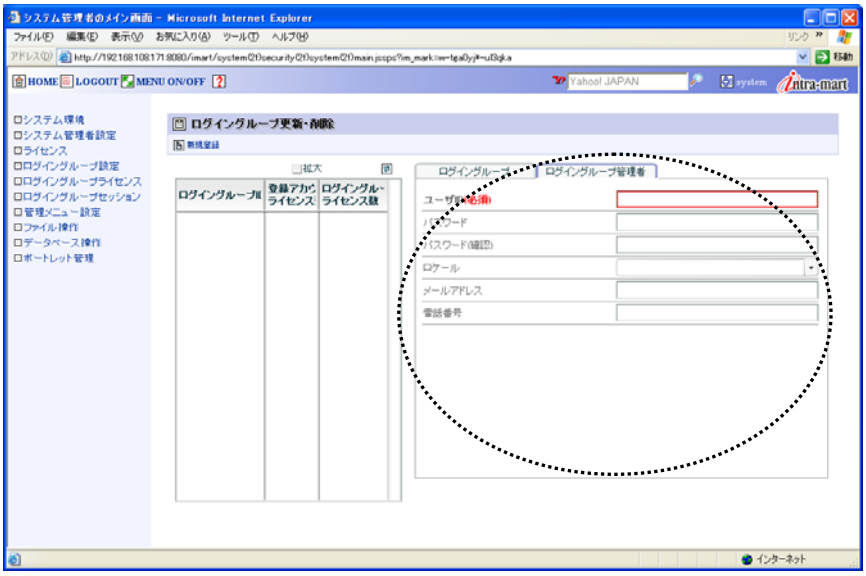
4. 「ログイングループライセンス数」を入力します。



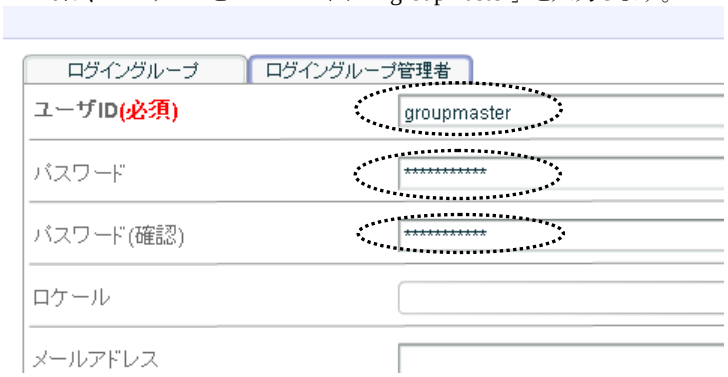
5. [ログイングループ管理者]タブをクリックします。



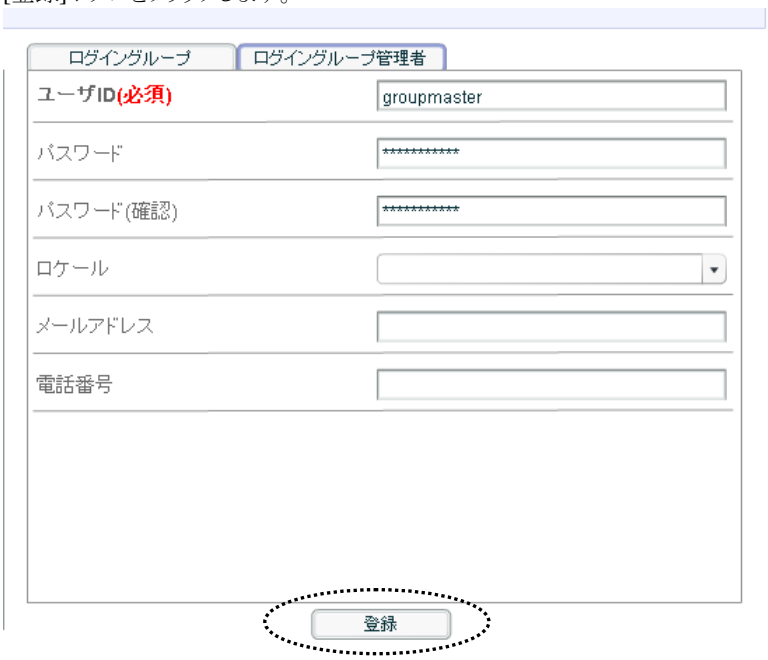
以下の画面が表示されます。



6. 「ユーザID」、「パスワード」、「パスワード(確認)」を入力します。
ここでは、ユーザID と パスワードに「groupmaster」と入力します。

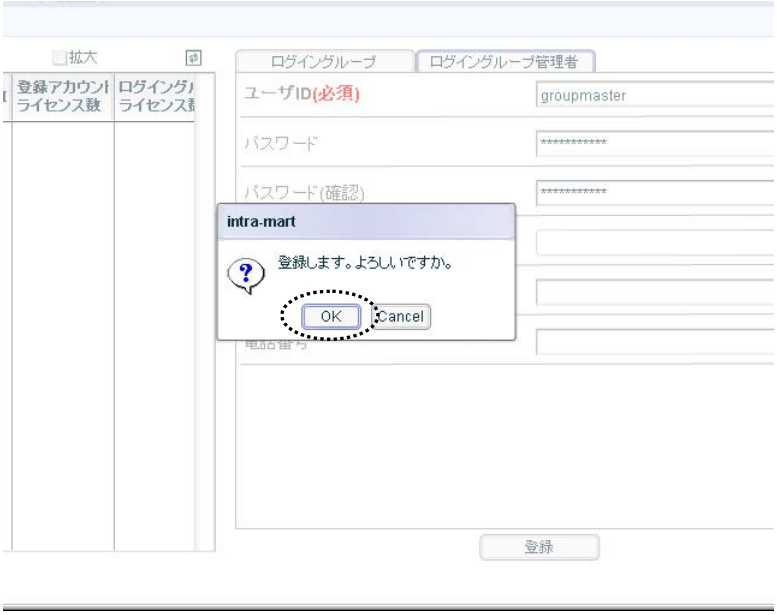


7. [登録]ボタンをクリックします。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

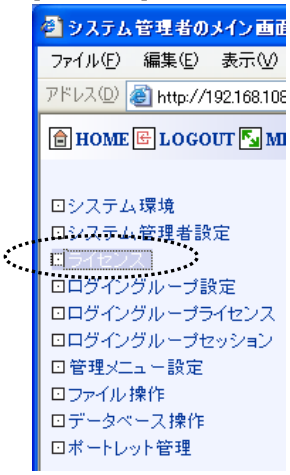
8. [OK]ボタンをクリックします。



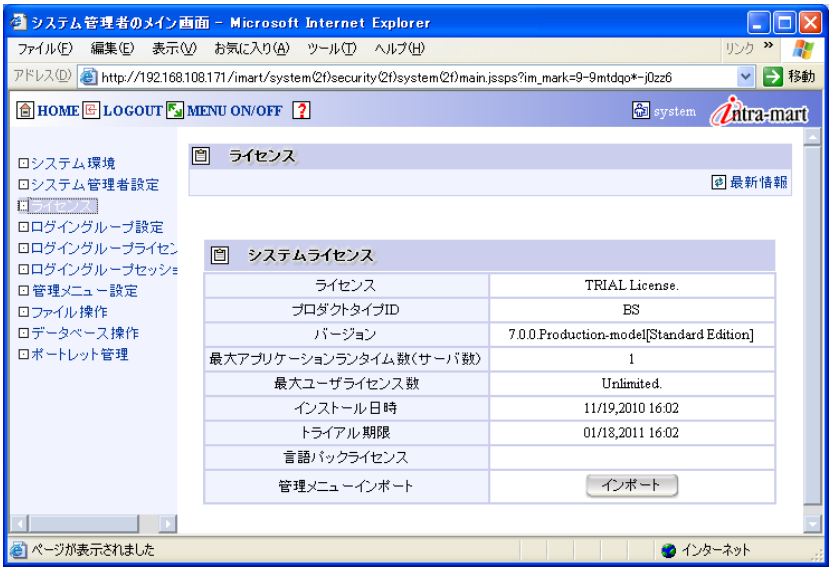
以下の画面が表示されれば、ログイングループの登録は完了です。

5.3 初期データインポート

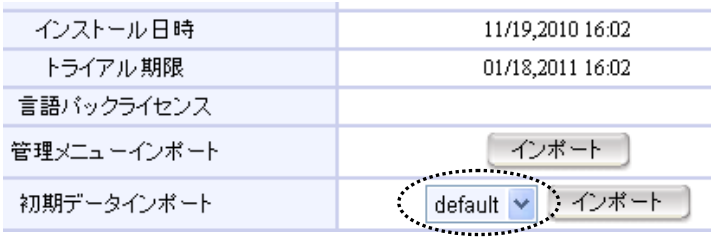
1. [ライセンス]メニューを選択します。



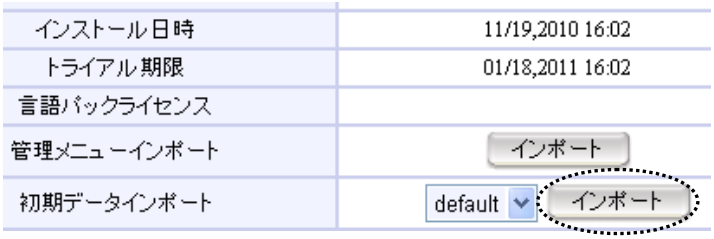
以下の画面が表示されます。



2. [初期データインポート]欄のコンボボックスで、インポート対象のログイングループを選択します。
ここでは、「default」を選択します。



3. [インポート]ボタンをクリックします。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

以下の画面が表示されたら、初期データインポートは完了です。

システムライセンス/初期データインポート結果

ライセンス画面へ戻る

項目	結果
テーブル作成(データベース)	テーブル作成に成功しました。 system/basic/appCreateTable.sql system/basic/itemCreateTable.sql system/basic/portalCreate.sql system/basic/vcCreateTable.sql system/basic/tmCreateTable.sql
ロール	インポートが成功しました。 system/basic/init-role.xml
アカウント	インポートが成功しました。 system/basic/init-account.xml
メニュー	インポートが成功しました。 system/basic/init-menu.xml system/basic/init-menu-item.xml
カレンダー	インポートが成功しました。 system/basic/init-calendar.xml
バッチ	インポートが成功しました。 system/basic/init-batch-master.xml
アクセスコントローラ	インポートが成功しました。 system/basic/init-access-controller.xml
Webサービスアクセス	インポートしませんでした。
レコード作成(データベース)	インポートが成功しました。 system/basic/appInsert.sql system/basic/portalInsert.sql system/basic/itemInsert.sql
拡張インポート(プログラム)	インポートが成功しました。 system/init/distribute_batch_config.js jp.co.intra_mart.foundation.portal.common.portletadmin.mbeans.PortletImport system/init/import_portal.js

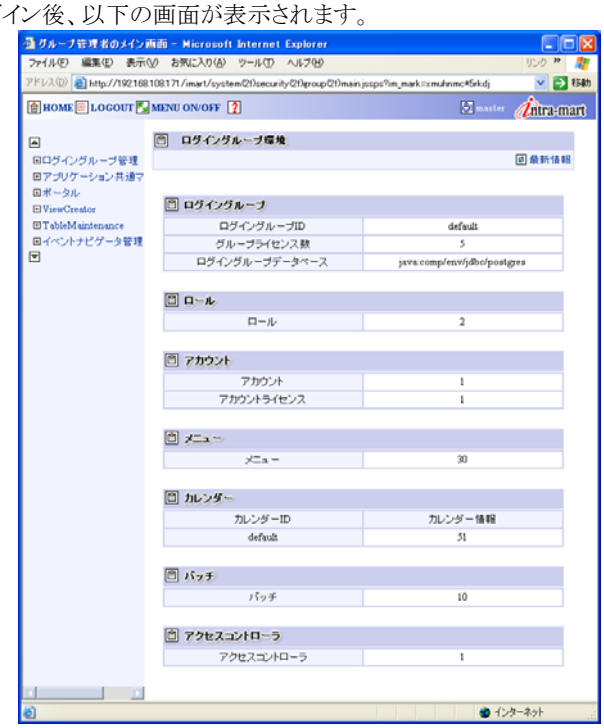
5.4 ログイングループ管理者でログイン

ログイングループ管理者は、以下の手順に従って intra-mart にログインします。

1. ブラウザから、以下のような URL を発行します。
   http:// ホスト名:ポート番号 / エイリアス名 / ログイングループID.manager
   （例）http://hostname:8080/imart/default.manager

2. ログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力して[ログイン]ボタンをクリックします。
   ここでは、「5.2 ログイングループの作成 6」で設定した、
   ログイングループ管理者のユーザ名とパスワードを入力します。

ログイン後、以下の画面が表示されます。



Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

6 intra-mart 環境の再構築方法

6.1 JDKを変更する場合

以下のファイルに記述されている JDK のパスを変更してください。

6.1.1 Windowsの場合

ディレクトリ	ファイル(行数)
<%**im_path**%>/bin	admin.bat(1)
	manager.bat(1)
	server.bat(2) ※
	srvcom.bat(1)
	zippack.bat(1)
<%**im_path**%>/bin/tools	licedit.bat(1)
	js2class.bat(1)
<%**im_path**%>/conf	imart.xml(215,222)

※ server.bat は IWP(Resin)の場合のみインストールされます。

6.1.2 UNIX系OSの場合

ディレクトリ	ファイル(行数)
<%**im_path**%>/bin	admin.sh(16)
	manager.sh(16)
	server.sh(16) ※
	srvcom.sh(16)
	zippack.sh(16)
<%**im_path**%>/bin/tools	licedit.sh(1)
<%**im_path**%>/conf	imart.xml(214,221)

※ server.sh は IWP(Resin)の場合のみインストールされます。

6.1.3 修正例

6.1.3.1 imart.xmlファイルの修正例

■ 修正前

```
<intra-mart>
  <platform>
      ・
      ・
    <java>
      <home>C:/jdk1.5.0_08</home>
      <server>
        ・
        ・
        <command>
          <exefile>C:/jdk1.5.0_08/bin/java</exefile>
          <option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XMX% -Djava.awt.headless=true</option>
          <argument/>
        </command>
      </server>
        ・
        ・
    </java>
    ・
    ・
```

■ 修正後

```
<intra-mart>
  <platform>
      ・
      ・
    <java>
      <home>C:/jdk1.5.0_12</home>
      <server>
        ・
        ・
        <command>
          <exefile>C:/jdk1.5.0_12/bin/java</exefile>
          <option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XMX% -Djava.awt.headless=true</option>
          <argument/>
        </command>
      </server>
        ・
        ・
    </java>
    ・
    ・
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

6.1.3.2 .batファイルの修正例

■ 修正前

```
"C:/jdk1.5.0_08¥bin¥java" -cp C:/imart¥bin¥imart.jar -Xms16m -Xmx128m jp.co.intra_mart.bin.server.
ServerController %1 %2 %3 %4 %5 %6 %7 %8 %9
```

■ 修正後

```
"C:/jdk1.5.0_12¥bin¥java" -cp C:/imart¥bin¥imart.jar -Xms16m -Xmx128m jp.co.intra_mart.bin.server.
ServerController %1 %2 %3 %4 %5 %6 %7 %8 %9
```

6.1.3.3 .shファイルの修正例

■ 修正前

```
## Please set the installation path of JDK.
JAVA_HOME=C:/jdk1.5.0_08
export JAVA_HOME
```

■ 修正後

```
## Please set the installation path of JDK.
JAVA_HOME=C:/jdk1.5.0_12
export JAVA_HOME
```

6.2 IPアドレスを変更する場合

intra-mart をインストール後、imart.xml や http.xml の設定ファイルを編集することで、IP アドレスの変更が可能です。IP アドレスを変更するには、**最初に OS やサーバ等で IP アドレス変更の設定をする必要がないかご確認ください。**OS 等で IP アドレスを変更後、intra-mart の設定ファイルを編集してください。

6.2.1 imSPをインストールしたマシンのIPアドレスを変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」
および「**<%im_path%>/conf/http.xml**」を開き、下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	9	intra-mart/platform/host/id intra-mart/platform/host/address
http.xml	62	resin/cluster/server/id resin/cluster/server/address

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Service Platform 設定ガイド」および「Web Platform 設定ガイド」を参照してください。

※ imart.xml の「intra-mart/platform/host/id」、および http.xml の「resin/cluster/server/id」の変更は必須ではありませんが、変更することをお勧めします。

※ IWP(JBoss)には http.xml はインストールされません。

※ WSC接続でApacheを使用する場合、「3.3 WebServerの設定－3.3.1 Apache 2 の場合」で設定したhttpd.confを修正する必要があります。

httpd.conf

```
・・・

ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
#<Location /caucho-status>
#   SetHandler caucho-status
#</Location>
```

※ WSC接続でIISを使用する場合、「3.3 WebServerの設定－3.3.2 IIS6.0 の場合」で設定したresin.iniを修正する必要があります。

resin.ini

```
ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
CauchoStatus no
IISPriority high
```

6.2.2 HTTPサーバのIPアドレスを変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」を開き、
下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	173	intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Service Platform 設定ガイド」を参照してください。

※ intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url は **ScheduleSrv** をインストールしたときのみ有効となる設定です。インストールをしない場合は変更する必要はありません。

※ HTTP サーバには、intra-mart HTTP サーバ、Web Server 等が含まれます。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

6.2.3 imSMのIPアドレスを変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたすべてのマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」を開き、下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	3	intra-mart/administration/host/address

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Service Platform 設定ガイド」を参照してください。

6.3 ポート番号を変更する場合

intra-mart をインストール後、imart.xml や http.xml の設定ファイルを編集することで、ポート番号の変更が可能です。ポート番号を変更するには、**最初に OS やサーバ等でポート番号変更の設定をする必要がないかご確認ください。**OS 等でポート番号を変更後、intra-mart の設定ファイルを編集してください。

6.3.1 WSCに接続するポート番号を変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」
および「**<%im_path%>/conf/http.xml**」を開き、下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	9	intra-mart/platform/host/id
	10	intra-mart/platform/network/port
http.xml	62	resin/cluster/server/id
	63	resin/cluster/server/cluster-port/port

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Service Platform 設定ガイド」 および
「Web Platform 設定ガイド」を参照してください。

※ imart.xml の「intra-mart/platform/host/id」、および http.xml の「resin/cluster/server/id」の変更は
必須ではありませんが、変更することをお勧めします。

※ IWP(JBoss)には http.xml はインストールされません。

※ WSC接続でApacheを使用する場合、「3.3 WebServerの設定－3.3.1 Apache 2 の場合」で設定したhttpd.confを修正する必要があります。

httpd.conf

```
・・・

ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
#<Location /caucho-status>
#   SetHandler caucho-status
#</Location>
```

※ WSC接続でIISを使用する場合、「3.3 WebServerの設定－3.3.2 IIS6.0 の場合」で設定したresin.iniを修正する必要があります。

resin.ini

```
ResinConfigServer AppRuntime の IP アドレス AppRuntime のポート番号
CauchoStatus no
IISPriority high
```


Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

6.3.2 HTTPサーバのポート番号を変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」
および「**<%im_path%>/conf/http.xml**」を開き、下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	173	intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url
http.xml	62	resin/cluster/server/id
	63	resin/cluster/server/http/port

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Web Platform 設定ガイド」 および
「Service Platform 設定ガイド」を参照してください。

※ intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url は **ScheduleSrv** をインストールしたときのみ
有効となる設定です。インストールをしない場合は変更する必要はありません。

※ imart.xml の「intra-mart/platform/host/id」、および http.xml の「resin/cluster/server/id」 の変更は
必須ではありませんが、変更することをお勧めします。

6.3.3 imSMのポート番号を変更する場合

intra-mart 製品をインストールしたすべてのマシンの「**<%im_path%>/conf/imart.xml**」を開き、下記表の該当箇所を変更します。

ファイル	行数	タグ名称
imart.xml	4	intra-mart/administration/network/port

※ 各設定項目の詳細については、別冊「Service Platform 設定ガイド」を参照してください。

6.4 ログイングループ名を変更する場合

「3.5.3 data-source.xmlの設定」で設定したログイングループ名は、以下の手順で変更することができます。

> ※ ログイングループ名変更時の注意点
>
> ログイングループ名は**システム運用途中に変更できません**のでご注意ください。
> ここでは、システム運用開始前を前提として説明します。

1. <% Server Manager の root %>/conf/data-source.xml を編集します。
   data-source/group-data-source/login-group-id のタグ内容を変更してください。

   例： ログイングループを"default"から"nttd_im"に変更する場合

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>

    <system-data-source>
        <connect-id>default</connect-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </system-data-source>

    <group-data-source>
        <login-group-id>default</login-group-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </group-data-source>

</data-source>
```

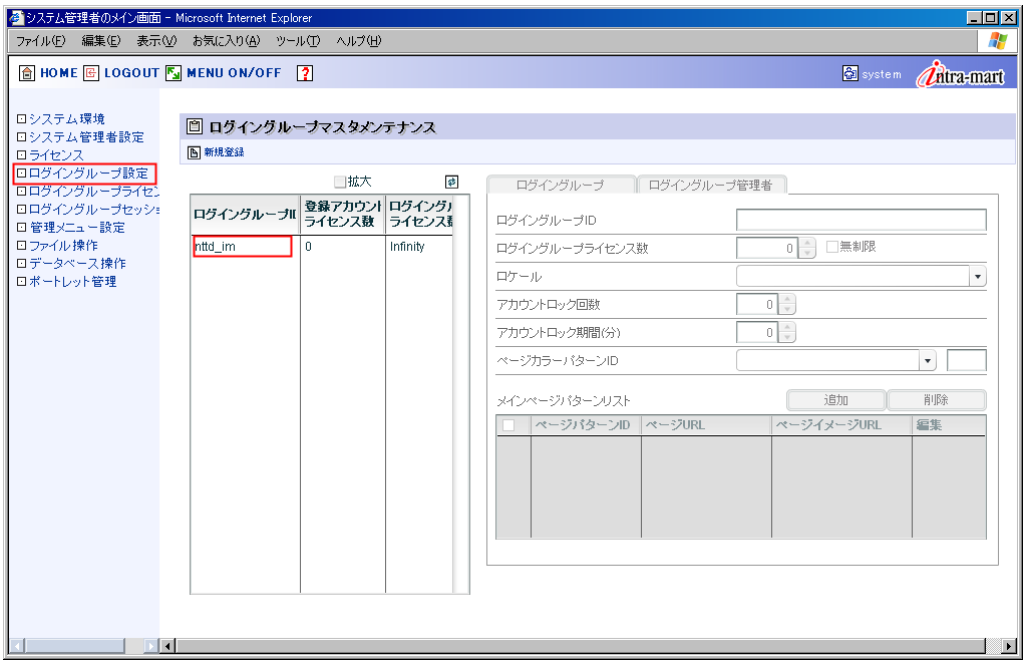
   以下のように変更してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>

    <system-data-source>
        <connect-id>default</connect-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </system-data-source>

    <group-data-source>
        <login-group-id>nttd_im</login-group-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </group-data-source>

</data-source>
```

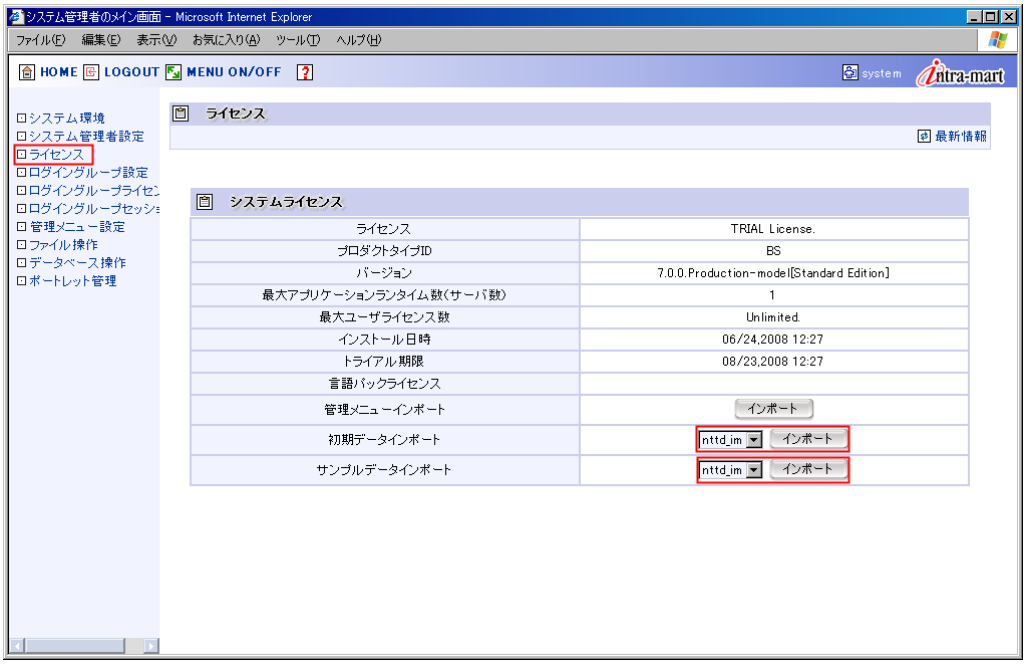
2. アプリケーションランタイムを再起動後、システム管理者でログインします。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3. メニューから[ログイングループ設定]を選択し、ログイングループを"nttd_im"という ID で作成してください。



4. メニューから[ライセンス]を選択し、作成したログイングループのデータをデータベースにインポートしてください。



5. データのインポート完了後、ログイングループの名前が変更されます。

※ データのインポートを実行すると、既存の DB 領域に同じ名前のテーブルやデータを入れようとするため、SQL エラーが発生しますが、特に問題はありません。

システムライセンス/初期データインポート結果
ライセンス画面へ戻る

項目	結果
テーブル作成(データベース)	Sqlエラーが発生しました。 system/basic/appCreateTable.sql
ロール	インポートが成功しました。 system/basic/init-role.xml
アカウント	インポートが成功しました。 system/basic/init-account.xml
メニュー	インポートが成功しました。 system/basic/init-menu.xml system/basic/init-menu-item.xml

※ 下図の様に「データベース接続に失敗しました。」や、「インポートに失敗しました。」などのエラーが発生した場合は、データベースの設定、または http.xml、data-source.xml の設定に問題がある可能性があります。http.xmlの設定の詳細は「3.5.2 http.xmlの設定」を、data-source.xml設定の詳細は「3.5.3 data-source.xmlの設定」を参照してください。

システムライセンス/初期データインポート結果
ライセンス画面へ戻る

項目	結果
テーブル作成(データベース)	データベース接続に失敗しました。 system/basic/appCreateTable.sql
ロール	インポートに失敗しました。 system/basic/init-role.xml
アカウント	インポートに失敗しました。 system/basic/init-account.xml
メニュー	インポートに失敗しました。 system/basic/init-menu.xml

6.5 試験環境等から環境を移行する場合

6.5.1 移行元のログイングループ管理者で、移行情報のエクスポート

移行元のログイングループ管理者でログインし、メニューから[アクセスセキュリティ情報入出力]-[エクスポート]を選択し、すべての情報をエクスポートしてください。

エクスポート
最新情報

	項目	カテゴリ	ファイル
☑	ロール	standard	role.xml
☑	アカウント	csv	user_account.csv
☑	メニュー	standard	menu.xml
☑	カレンダー	standard	calendar.xml
☑	バッチ	standard	batch.xml
☑	アクセスコントローラ	standard	access_controller.xml
☑	グループ管理権限ユーザメニュー	standard	admin_user_menu.xml
☑	Webサービスアクセス	standard	ws_access.xml

エクスポート

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

6.5.2 移行元データベースからデータベース格納データのエクスポート

移行元のログイングループで指定しているデータベースのデータを、各データベースソフトでの最適な方法で、エクスポートしてください。

6.5.3 移行先データベースへデータベース格納データのインポート

「6.5.2 移行元データベースからデータベース格納データのエクスポート」でエクスポートしたデータを、移行先のログイングループで指定しているデータベースへ、各データデータベースソフトでの最適な方法で、インポートしてください。

6.5.4 移行先環境へintra-martのインストール

「3 インストール」を参照し、移行先環境へintra-martをインストールしてください。
その際、ログイングループの作成までとし、以下の作業は実施しないでください。

- 初期データインポート
- サンプルデータインポート

intra-mart の各アプリケーションを利用している場合は、各アプリケーションもインストールしてください。

6.5.5 各種ファイル、ディレクトリの移動

移行先環境へ、移行元環境から、以下のファイル、ディレクトリを移動してください。

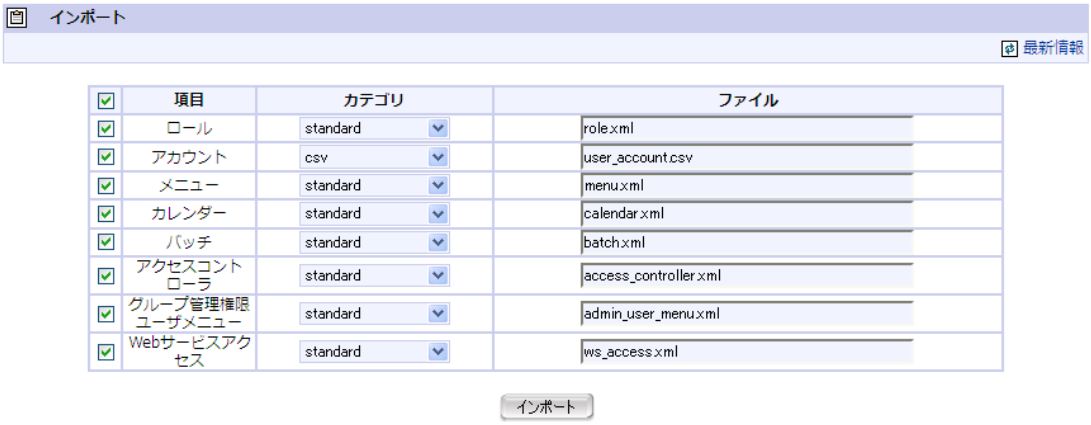
- 「6.5.1 移行元のログイングループ管理者で、移行情報のエクスポート」でエクスポートしたファイルを
  % [Storage Service]パス% /storage/ に配置してください。

- アプリケーションを作成した場合は、以下のファイル、ディレクトリを移動してください。
  - Web サーバコネクタに設置した静的コンテンツ（画像ファイル・CSS ファイル・CSJS ファイル）
  - スクリプト開発モデルで開発した HTML、JS ファイル
    （% [Resource Service] パス% /pages/src 以下のファイル・ディレクトリ）
  - JavaEE 開発モデルで開発した JSP、Class ファイル、jar ファイル
    % [Application Runtime] パス% /doc/imart 以下のファイル・ディレクトリを移動して、移行先で、war ファイルを作成して、Web アプリケーションサーバにデプロイしてください。
    web.xml は、移行元環境の web.xml をそのままコピーするのではなく、移行先の web.xml に対して差分を反映することをお勧めいたします。
  - メッセージファイル（properties ファイル）
    （% [Service Manager] パス% /conf/message の各ファイル

- PDF デザイナ、イントラマートスタートパック、Quick Binder、EX 申請など StorageService を利用するシステムを利用の場合は、% [Storage Service]パス% /storage/ の各ディレクトリを移動してください。

6.5.6 移行先のグループ管理者で移行情報のインポート

移行先のログイングループ管理者でログインし、メニューから[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]を選択し、「6.5.5 各種ファイル、ディレクトリの移動」で移動したエクスポートファイルをインポートして、intra-martを再起動してください。



以上で、試験環境等から環境を移行する作業は終了です。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

7 アンインストール

※ ユーザが作成したテーブルやビュー等がある場合は、データベースの初期化の前にバックアップを行ってください。

7.1 コマンドプロンプトで動作させている場合

起動している場合は、Ctrl＋C キーで停止させます。

Web サーバから、Web Server Connector の登録情報を削除します。
インストールしたディレクトリ **<%web_path%>** および **<%im_path%>** を削除します。
intra-mart が利用していたデータベースを初期化します。

7.2 サービスとして動作させている場合

起動している場合は、intra-mart ServiceManager から停止させます。
intra-mart ServiceManager から 各サーバをサービスから削除します。

Web サーバから、Web Server Connector の登録情報を削除します。
インストールしたディレクトリ **<%web_path%>** および **<%im_path%>** を削除します。
intra-mart が利用していたデータベースを初期化します。

7.3 Windowsの場合

Windows のスタートメニューに登録されている、intra-mart の起動メニューを削除します。

以下のディレクトリを削除して下さい。
C:¥Documents and Settings¥<%インストールした時のユーザ ID%>¥スタート メニュー¥プログラム¥intra-mart WebPlatform Ver7.0

※ 上記の説明では、IWP をデフォルト値でインストールした場合のディレクトリを示しています。
※ IWP のインストールでスタートメニューの登録名を変更した場合は、ディレクトリの場所も異なります。

8 付録 A intra-mart システム管理シート

intra-mart システム管理シート

※既に記述されている欄は該当のものに丸をおつけください。

Web サーバ (IWP のみ)	Web サーバ	Apache、 IIS
	バージョン	
	ホスト名(FQDN)	
Application Server	Application Server	Resin、 JBoss、 WebSphere、 WebLogic
	バージョン	
	ホスト名(FQDN)	
Java VM(JDK)	バーション	
データベース	種別	ORACLE、 MS-SQLServer、 IBM DB2、 PostgreSQL
	データベースバージョン	
	ネットワークデータベース名	
	最大接続数	
	接続形態	ネイティブ(JDBC THIN 接続)
	上記接続ドライババージョン	
SMTP サーバ	ホスト名(FQDN)	
intra-mart	システム管理者ユーザID/パスワード	system / *******
	ログイングループ ID	
	ログイングループ管理者ユーザID/パスワード	
	intra-mart アプリケーション名	
	intra-mart バージョン	
Web サーバ マシンスペック	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	
	ハードディスク	
intra-mart サーバ マシンスペック (Web サーバと同一マシンの場合は未記入	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	
	ハードディスク	
DB サーバ マシンスペック (Web サーバと同一マシンの場合は未記入)	CPU クラスおよび数量	
	メモリ	
	ハードディスク	
クライアント PC	機種	
	搭載ブラウザ	Firefox、 InternetExplorer
	搭載ブラウザバージョン	

※ バージョンについては、細かなリビジョン番号まで記載ください。

※ パスワードは記入しないで忘れないようにしておくか、記入した場合は、このシートを厳重に管理してください。

※ 運用するサーバ構成図を記入してください。

※ WebServerConnecoter(IWP(Resin)の場合のみ), intra-mart 各サーバモジュール(Application Runtime など)をどこにインストールしているか記入してください。

※ 差し支えなければ、各サーバの IP アドレス および各サーバモジュールが利用している通信ポート番号を記入してください。

システム構成図

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

9 付録 B インストールトラブルシューティング

インストール時のトラブルシューティングは、
別冊「**intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver7.0 エラーガイド**」 に記載されています。
以下の注意事項とあわせてご参照ください。

9.1 注意事項

画面の動作が不安定なときは、ブラウザのキャッシュをクリアした後、サーバのドキュメントと毎回比較するように設定し、ブラウザを再起動してください。
上記以外に該当しない理由においても、インストール後、ログイン画面等が正常に表示等されない場合については、インストールならびに、適切な設定がされていない可能性がありますので、下記点についてご確認ください。

- 起動時における % [Application Runtime]パス % /log/platform/system.log ファイルに、
  起動情報が出力されます。→根本原因と関連するエラーメッセージ等は出力されていないか？
- インストール先のディレクトリが、他の[各 Service]インストール先と重複していないか？
- [Application Runtime]の起動に時間を要している。
  →IM-Administrator ツールにて、サーバの起動状態をご確認ください。
- [各 Service]の他、[ServerManager]をインストール、起動されているか？
- 他社製品等で、既に IP アドレスならびに、ポート番号が使用（Listen Port）されていないか？
- 各設定の IP アドレス、ポート番号に相違設定がないか？

以上を確認しても問題が回避されないようであれば、根本的なインストール、設定等が不適切である可能性があります。該当バージョンについては、たいへんデリケートな製品となっておりますので、
再インストールを行っていただく方が迅速に対応可能な場合もあります。ご検討ください。

10 付録 C 運用開始及び運用にともなう Tips（安定稼動を目指すために）

10.1 運用開始後

- 運用開始後の運用状況確認期間を必ずもうける。
  実際に運用を開始してからではないと取得できない「アクセスパターン」、「使用状況」、「稼動状況（環境周り）」を把握するために必要となる期間。
  - ◆ 取得する情報の例
    - アクセス数（平均、ピーク時等）、CPU 使用率、スループット※1
    - 処理内容の統計（どの処理がどのくらい行われているか等）※2
    - JavaVM メモリ使用状況（時系列での JavaVM 内部のメモリ使用率、FullGC 発生率等）※3

- 運用開始後の運用状況確認期間で得られた情報を元に環境の再設定や再構築を行う。
  取得した情報を元に「OS」、「JavaVM」等の環境設定やプログラム変更を行う。
  - ◆ 環境設定の例
    - CPU 稼動率やスループットによりハードウェアの増設等を検討。
    - よく使われている処理の効率を上げるためプログラム変更等を検討。
    - メモリ使用率が高い場合や FullGC の発生率（発生間隔）が高い場合は、プログラム変更等によりメモリ使用を少なくするようにすることや、JavaVM パラメータ設定（-Xms,-Xmx 等）により FullGC の発生率を減らすこと※4等を検討する。また、ハードウェア的にメモリ容量が少ない場合、メモリ増設を検討

10.2 運用

- 定期的な運用状況確認期間を必ずもうける。
  定期的に「アクセスパターン」、「使用状況」、「稼動状況（環境周り）」を把握するために必要となる期間。
  - ◆ 取得する情報の例
    - 上記、運用開始時と同様に行う。

- 定期的な運用状況確認期間で得られた情報を元に環境の再設定や再構築を行う。
  取得した情報を元に「OS」、「JavaVM」等の環境設定やプログラム変更を行う。
  - ◆ 環境設定の例
    - 上記、運用開始時と同様に行う。

Copyright 2000-2012 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

10.3 備考

※1 アクセス数（平均、ピーク時等）は、アクセスログ等にて収集、CPU 使用率は、top コマンドや、パフォーマンスモニタ等で取得、スループットは実際アクセス計測等にて取得

※2 処理内容の統計は、アクセスログ、プログラムログ等にて収集

※3 JavaVM メモリ使用状況（時系列での JavaVM 内部のメモリ使用率は
intra-mart Administrator のメモリログで取得、FullGC 発生率は intra-mart Administrator のメモリログ（急激に使用可能メモリが増している個所）や JavaVM のパラメータ-verbose:gc 等により取得

※4 FullGC は GC 処理以外の処理がすべて一定時間停止（数秒から多くて20～30分程度）
するので FullGC がかかるのが1日に 1 回位まで少なく行われるようにする。
また、FullGC がかかるのを夜間に行われるように調整することにより運用時に FullGC の影響が極力なくなるようにする。（夜間に再起動も検討する。）

その他 JavaVM のパラメータの詳細は Oracle Java ホームページ「 **http://www.oracle.com/technetwork/java/** 」より入手して下さい。

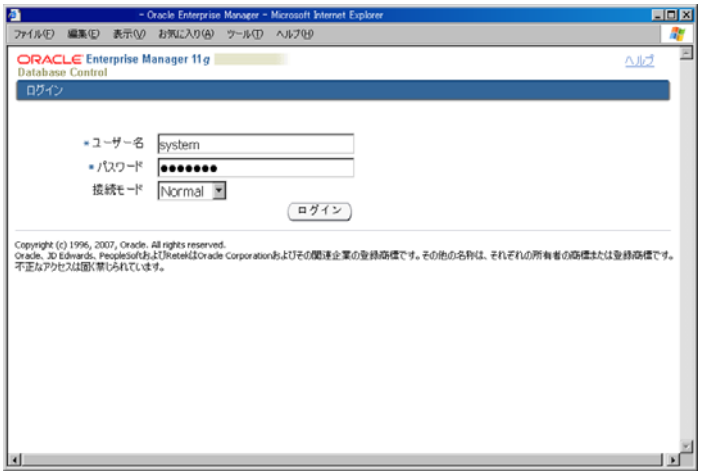
11 付録 D Oracle11g での表領域、およびユーザの作成方法

intra-mart を使用する場合、DBMS の使用が前提となり、intra-mart で DBMS として Oracle を使用する場合、最低、intra-mart 専用のユーザと権限を付与する必要があります。
以下、Oracle11g の表領域の作成、およびユーザ作成と権限付与の方法を記します。
※　以下の手順は、トライアルや開発用で一時的に使用する場合の方法で、一般業務等で使用する場合は、別途表領域等の DB 容量見積もりを行った上で、テーブルスペース等の設定を行ってください。

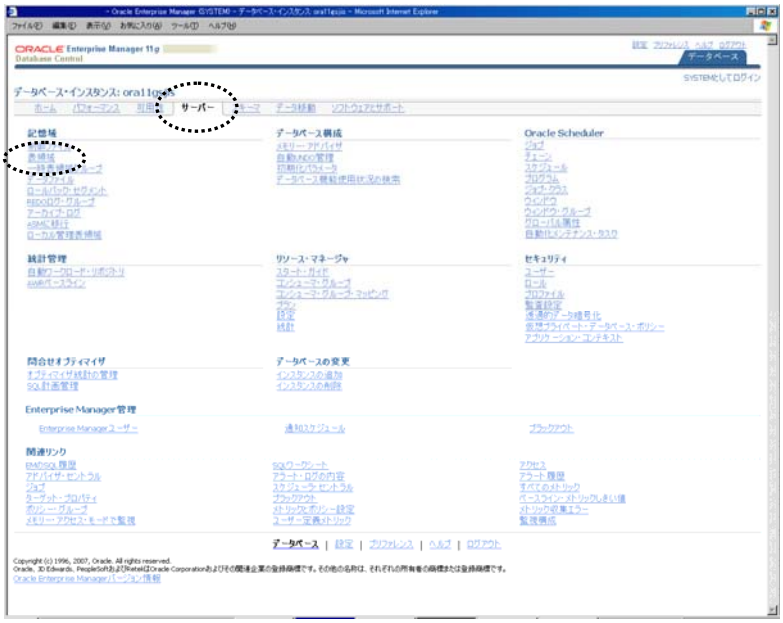
11.1 表領域の作成

ユーザが固有に作成するデータを格納するための表領域を作成します。

1. ORACLE 11g Enterprise Manager のログイン画面を表示し、 管理者権限で DB に接続します。
   接続先の URL 例 「http://localhost:5500/em」



2. [サーバ]タブの[表領域]リンクをクリックします。



Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3. [作成]ボタンをクリックします。

4. [名前]に表領域名を入力し、[追加]ボタンをクリックします。

5. ファイルディレクトリ、サイズ等を設定し、[続行]ボタンを押します。

6. [OK]ボタンを押します。

「オブジェクトは正常に作成されました」と表示されれば成功です。

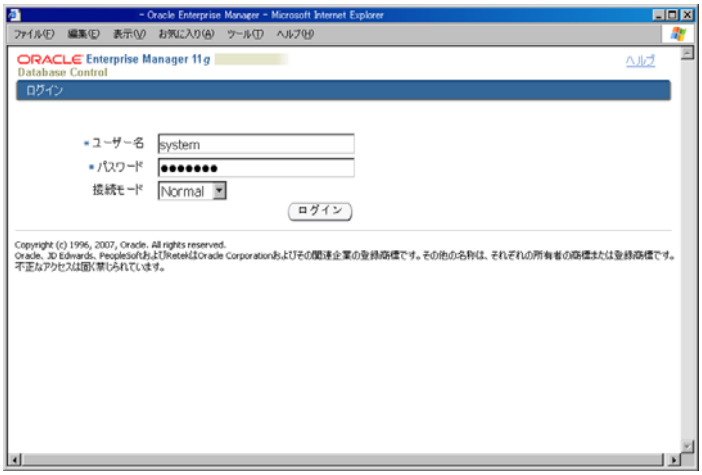
詳しくは、Oracle Enterprise Manager Online Help の「表領域の作成、編集、削除」トピックを参照してください。

Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

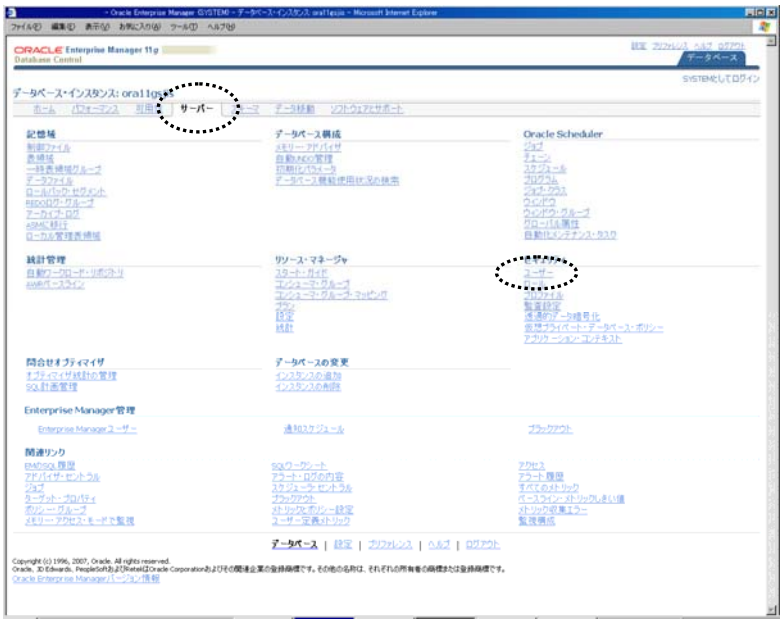
11.2 ユーザの作成

intra-mart で使用する Oracle ユーザを作成します。

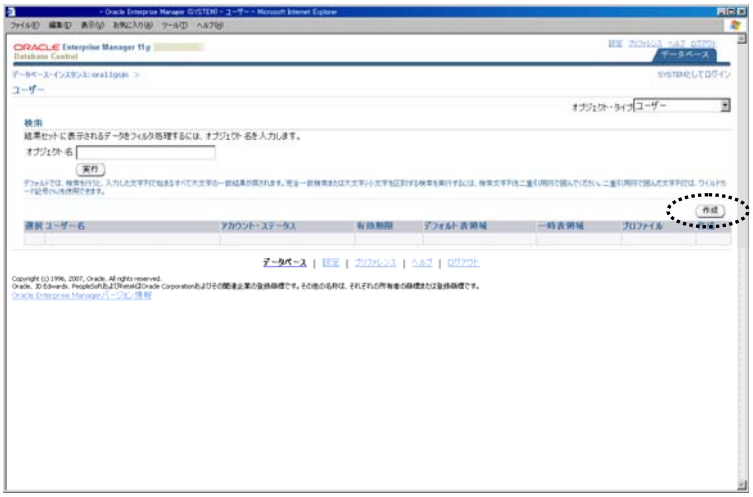
1. ORACLE 11g Enterprise Manager のログイン画面を表示し、管理者権限で DB に接続します。
   接続先の URL 例 「http://localhost:5500/em」



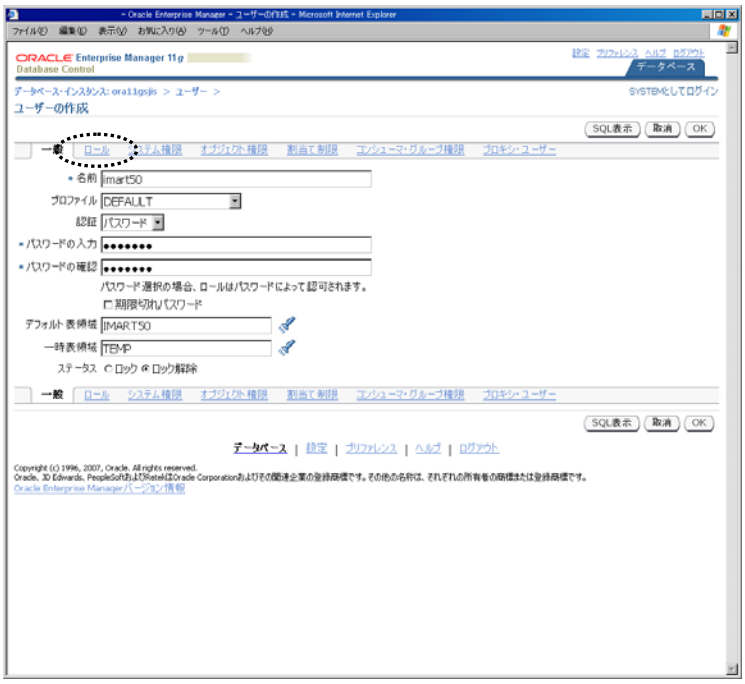
2. [サーバ]タブの[ユーザー]リンクをクリックします。



3. [作成]ボタンをクリックします。



4. 名前、パスワード、表領域等を設定し、[ロール]タブを選択します。

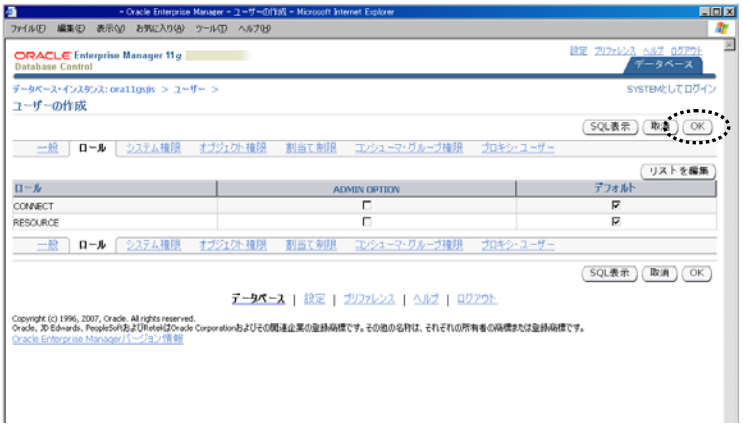


Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

5. [リストを編集]ボタンをクリックします。

6. CONNECT ロールと RESOURCE ロールを与え、[OK]ボタンをクリックします。

7. [OK]ボタンをクリックします。



「オブジェクトは正常に作成されました」と表示されれば成功です。

詳しくは、Oracle Enterprise Manager Online Help の「データベース・ユーザーの作成、編集、削除」トピックを参照してください。

11.2.1 CREATE VIEW権限の付与

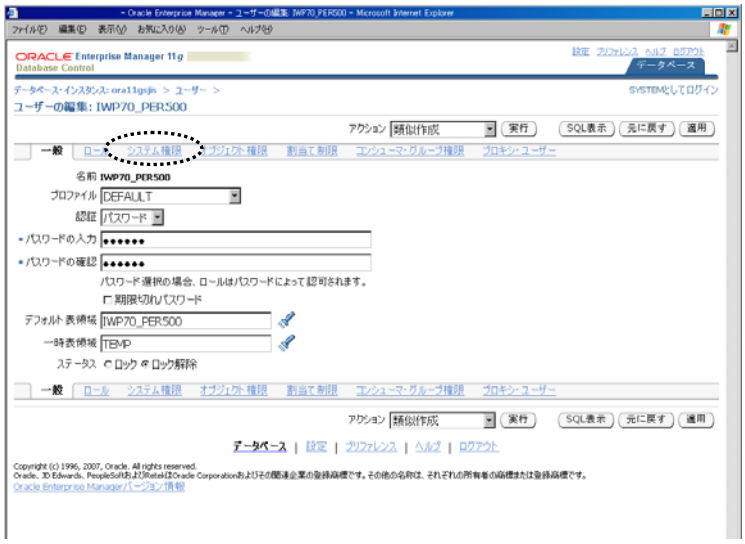
intra-mart を利用するには、CREATE VIEW 権限が必要です。

Oracle Database 11g Release 1 の CONNECT ロールには CREATE VIEW 権限が予め付与されておりません。

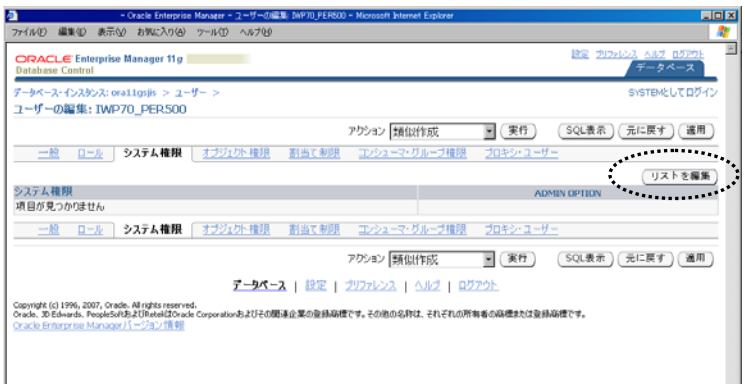
そのため、CREATE VIEW 権限を明示的に付与する必要があります。

1. CREATE VIEW 権限を付与するユーザを指定し、[編集]ボタンをクリックします。

2. [システム権限]タブを選択します。

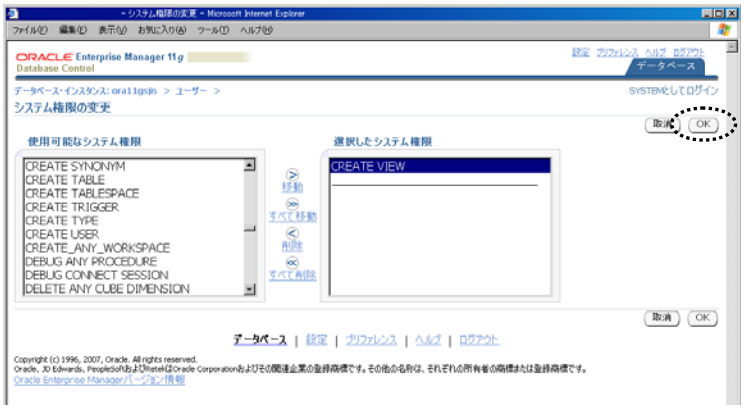


3. [リストを編集]ボタンをクリックします。



Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4. CREATE VIEW 権限を与え、[OK]ボタンをクリックします。



5. [適用]ボタンをクリックします。

「ユーザー XXXX は正常に変更されました」と表示されれば成功です。

intra-mart WebPlatform Ver.7.0
セットアップガイド

2012/03/26 第9版

Copyright 2000-2012 株式会社NTTデータ イントラマート
All rights Reserved.
TEL: 03-5549-2821
FAX: 03-5549-2816
E-MAIL: info@intra-mart.jp
URL: http://www.intra-mart.jp/